夕刊
臺灣日日新報
一月七日
[illegible]

ビオスゼリー

あす大詔奉戴日一周年

"承詔必謹"精神新たに

戰爭生活の實踐に邁進

【東京電話】明八日は新春初めて迎へる大詔奉戴日、昨年一月八日第一回記念奉戴日が設定されてから滿一周年、我等一億國民は大東亞戰爭第二年を愈々本格化せんとするこの時期に是が非でも勝ち拔く決意を新たにこの奉戴日に「承詔必謹」の精神を新たにし戰爭生活の實踐に邁進せんとの決意を更に固めよう、大政翼贊會ではこの日の實踐事項として左の通り「アルミ貨以外の補助貨引換へ」と「間に合せる生活」の二つを指示してゐる、なほ七日夜七時三十五分から十分間大政翼贊會[illegible]局長はAKのマイクを通し實踐事項を中心に勝ち拔く決意を固く一致に呼びかける

實踐事項

一、軍艦、大砲、飛行機等をどしどし作つて第一線に送り米英を擊滅するためこの日を期しアルミ貨以外の補助貨は一枚殘らず他の貨幣と引換へを完了しませう

（イ）各自が銘々に引換へるに不便があるからこの日を供出日と定めて隣組、町內會、部落會が各戶から取纏めて引換へませう

（ロ）各家庭では勿論會社も寺院も商店も工場もこの日には必ず引換へを行ひ[illegible]である銅貨白銅貨をお國の役に立てませう

二、この日に總て間に合せる新工夫を實行致しませう

（イ）衣類や家具等も創意工夫で「間に合せる」工夫を致しませう

（ロ）家庭の不用品はこの日に隣人會、部落會、町內會等が主となつて交換會を開き必要なものと交換して物品を生かす工夫を致しませう

第三次魯東作戰

酷寒中に敵施設覆滅

【青島七日發同盟】昨年十一月二十二日未明を期し開始された第三次魯東作戰は酷寒氷雪の山野に活躍する我が精鋭各部隊の連續的猛攻に敵の根據地並に各種施設は次々に覆滅されつつあるが○○部隊が十二月末までに擧げた綜合戰果左の如し

交戰回數三三、交戰敵兵數一三、八五〇、敵遺棄死體三三二、俘虜七、九八八、鹵獲兵器山砲一、迫擊砲二、輕機二一、同彈藥四四九、小銃八三六、同彈藥一四、八九七、手榴彈四、四〇二その他多數

ルーズベルトを糺彈

米議會、政府攻擊の狼煙

【ブエノスアイレス六日發同盟】ワシントン來電＝米國の第七十八議會は六月開催された議會に際り下院議長レイバーンは「第七十七議會は戰時議會であつたが第七十八議會は勝利の議會である」と述べた

【ブエノスアイレス六日發同盟】ワシントン來電＝米國の第七十八議會は六日正午開會、下院議長レイバーンは開會劈頭「今度の議會は勝利の議會である」と氣勢を擧げたが政府の統制政策、官僚政策その他の戰時政策に對する共和黨並びに民主黨不滿分子の反對は益々强硬で議會は相當の波瀾を豫想されてゐる、以上の空氣を反映しジョージア州選出民主黨下院議員コックスは議院規則に則し議會を代表して政府攻擊の狼煙を擧げた、即ちルーズベルトの戰時政策を非難して左の如く演說した

官僚主義政府は今日直ちに打倒せねばならぬ、議會は財政法案によつて以上の目的を達成するであらう、米國を支配する者は議會が自らの代表として選んだ議會によつて制定されることを米國民は期待してをり一度もお目にかかつたこともなくその政策についても全く熟知せず又投票によつて選出もしない人々によつて法律が作られることを期待してゐるのではない、大統領の權限には限界がある、我々は行政機關に對する議會の獨立を確保しなければならぬ、我々の直面する仕事は困難であるかも知れないが飽く迄も遂行されなければならぬ、議會は憲法によつて定められた大きな權限を行使する必要があり而してその權限とは議會が下院の支出權を確[illegible]

重大難局に直面

米政界、獨善主義打倒の空氣橫溢

【ブエノスアイレス六日發同盟】米國第七十八議會は六日正午開會、上下兩院の組織を了しかく[illegible]七日愈々大統領の教書が朗讀される段取だが米國政界には「官僚獨善主義」打倒の空氣が[illegible]しルーズベルトは一九三三年一月の議會以來初めての重大難局に直面してゐると傳へられる、以上の空氣を反映し六日の院式には下院議員四百卅五名、上院議員九十六名の殆ど全部が出席した[illegible]はルーズベルト反對派が多數を擁するのではないかとの觀察が有力である、下院現在の分野は民主黨二百二十二名、共和黨二百八名となつてゐるが民主黨議員の內南部選出の百十三名は何時共和黨と合流して政府反對の立場を[illegible]するかも知れずルーズベルトの立場は極めて困難と解される、共和黨は早くも官僚政治打倒の氣勢を擧げてゐるが消息通では來る六月失效する[illegible]法の期限延長に際し、ルーズベルト反對派は同法の撤廢を掲げてルーズベルト政權を攻擊するだらうと見られる

太平洋軍事會議

【ブエノスアイレス六日發同盟】ワシントン來電＝米大統領ルーズベルトは六日ホワイトハウスに太平洋軍事會議を開催、英國大使ハリファックス、ニュージランド公使ナッシュその他が出席して世界戰局について檢討した

獨ソ兩軍死鬪

東部戰線南部地區戰況

【ストックホルム六日發同盟】東部戰線南部地區の戰況は兩軍の反擊とも相俟つて益々白熱化しスターリングラードから中部コーカサスにかけて晝夜を分たぬ死鬪が續けられ戰況は一進一退を繰返してゐる、同方面における赤軍の作戰目標はスターリングラード、ロストフ鐵道並びにスターリングラード、クラスノダール鐵道に沿つて進擊し更に他の一隊を以て中部コーカサスのナリチク、プロフラードヌイから西北へ進擊しロストフを衝かうとするにあり目下スターリングラード西南方百二十粁のモロゾフスカヤ並びにツイムリヤンスカヤ附近では獨ソ兩軍は激烈なる攻防戰を展開してゐると傳へられる

六日赤軍の戰況公報も同方面の獨軍が有力な戰車步兵の增援部隊を得、反擊力が著しく增大したと述べ赤軍の進擊が意の如く進まないことを仄めかしてゐる、一方獨軍の發表によれば五日獨軍は赤軍の攻擊を擊退、同軍一戰車部隊は赤軍戰車三十一臺を擊破し更に同軍[illegible]部隊は戰車二十五臺、對戰車砲廿二門を擊破したと云はれる、一方コーカサスのモズドク、プロフラードヌイ地區においても獨軍は[illegible]、赤軍は[illegible]に出てゐる樣子で、又スターリングラード南方約二百マイル[illegible]のプリュトノエ附近でも激戰が展開してゐると傳へられる

米外交の手前味噌

米國務省、宣傳文書發表

【ストックホルム六日發同盟】米國國務省は三日平和と戰爭と題する全文六萬語からなる宣傳文書を發表し一九三一年から四一年に至る一〇ヶ年の米國外交政策について手前味噌を並べたが右文書の要旨次の通り

日米兩國の關係

東京駐劄米國大使は一九四一年一月二十七日國務省に對し日本軍が米國に對し大規模な奇襲を加へる計畫を樹ててゐる旨警告した、米國政府の政策は飽くまで平和を維持し日本を戰爭の渦中に卷き込む[illegible]が持上るのを阻止する事を目標としてゐた、併しながら一九四一年に至り大統領ルーズベルトは日本政府が飽くまで帝國主義政策を遂行し最早日本政府を阻止する事が出來ない段階に到達した事をさとるに至つた、一九四一年十一月三日東京駐劄大使は國務省に打電し日本の總動員勢力を[illegible]に於てこれを消耗させてしまひ日本を破滅に導かねばならぬとの見解に反對する旨を述べ同時に日本政府は「劇的且つ危險な突發さを以て」米國と戰爭を賭する樣な手段を採る事が出來ると警告した、更に一九四〇年九月十二日同大使はハル國務長官に對する電報に於て「日本政府は今や防衞政策を放棄する絕好の機會が到來したと考へてゐるに違ひない」と報告したが更にその後に至つて從來日本政府は英國の敗戰必死と確信してゐるが今や獨軍が敗北する可能性をも考慮してゐる旨だと報告した

米獨兩國の關係

ドイツ政府が國際聯盟を脫退した一ヶ月後國務省に對し次の公報が入つてゐる

ドイツ政府は軍縮に關する會議には一切參加しないであらうが依然として平和と協調政策を維持するであらう、但し同時にドイツ政府は[illegible]に力點を入れるに違ひない

又ベルリン駐劄米國總領事ダグラス・ミラーは一九三四年四月二十一日次の通り報告してゐる

ナチスは再軍備並に國民訓練のため數ケ年の間に平和維持を希望してゐるが乃至は好戰的であり侵略的であるナチスの政策が成功すれば必ず歐洲に何時か大規模な戰爭が起るであらう

又駐獨米國武官ウエスト中佐は一九三四年五月國務省に對し「日獨兩國が同盟の締結を目指する恐れがある」旨を述べて警告した

米伊兩國の關係

イタリア政府は愈々多數の軍隊をフランスに對し攻擊を加へる形勢となつたので大統領は三度首相に對し自重を勸告した、特に五月二十六日[illegible]イタリア政府の[illegible]な希望を交涉によつて解決するやう[illegible]首相に申入れた、併しながらローマ駐劄フイリップス大使が自身でメッセージをムッソリーニ首相に手交しようとしたところイタリア政府當局は許可を與へなかつたので同大使はイタリア外相チアノ伯と會談したが右會見の席上イタリア外相はムッソリーニ首相の同意を得てゐる旨と聲明「イタリア政府としてはかかる大統領の申入れを受入れる事が出來ない[illegible]」[illegible]

米國の食糧不足

議會の劈頭、政府攻擊

【ブエノスアイレス六日發同盟】米國の食糧不足は政府統制の失敗の暴露にも拘らず益々深刻化して第七十八議會では劈頭から食糧問題が政府攻擊の一つとして取上げられる形勢にある、ワシントン來電によれば加州選出共和黨上院議員クライドリードは食糧不足問題に關し政府攻擊の第一聲を擧げ左の如く述べたと傳へられる

米國は今後三十日乃至六十日以內に深刻なるパン不足に當面するだらう、而してこの不足の原因は全く政府の措置が誤つてゐたために外ならず即ち政府は小麥生產農家に對する施策によつて小麥の價段を不當に吊り上げその結果小麥の價段は一九三七年以來の最高値に達した、然るにその一方では物價調整局は小麥粉の價段を昨年九月二十八日乃至十月二日の平均價格に釘付けした爲製粉業者は非常な窮境に陷り、小麥の新規買入を停止するに至つた一方、小麥粉の賣出しをも中止してしまつた、斯くの如く米國のパン不足の原因は實に馬鹿らしい程簡單なものであり、この解決策は唯小麥粉の値上を認めさへすればいいのである

墨國領へ國際買出

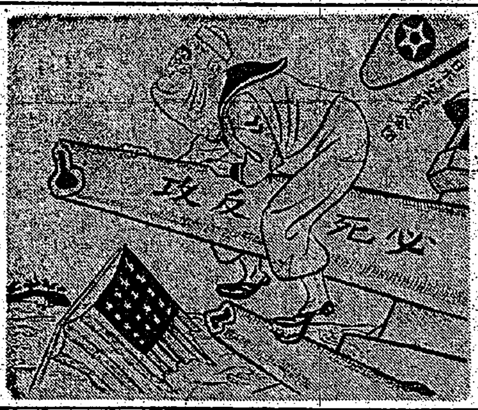
肉不足で馬肉賣出

【ブエノスアイレス六日發同盟】米國の食糧不足は今や全國的な現象となりその他の物資不足と並んで戰時下米國の直面する重要問題の一つとなつてゐるが食糧不足は都會地において特に著しく遂に國境を越えてメキシコ領への「國際買出」さへ現出してゐると傳へられる、即ち六日ニューヨーク來電によると米國各地の食糧不足狀態は次の通り

病人、幼兒に特配　ニューヨーク市では罐詰、牛肉の如きは殆ど一般の入手不可能の狀態を呈しその他の罐詰類も一人に二罐づつと制限政策を實施してゐる、市長ラ・ガーディアは非常對策として幼兒並びに病人のある家庭に對しては醫師の證明によつて一定の牛乳を優先配給する旨發表した、又肉類不足も顯著をなし最近の調査によるとニューヨークの肉類在庫量は平年時に比し牛肉卅五パーセント、豚肉五十パーセント、羊肉四十パーセントといふ心細さでバターも一人に對して四分の一封度に制限されてゐる、デトロイトでは昨年の降誕祭には肉不足のため肉なし降誕祭となつた[illegible]肉不足で休業してゐる罐詰業者も多數に上つてゐる

馬肉の賣出　ボストンでは肉不足對策として遂に馬肉を一封度二十五仙から五十仙の價段で賣出した、シカゴではバター、ラードなどは殆ど手に入らずその他野菜類、マカロニー、罐詰類の不足が顯著である、ロサンジエルスでは食糧並に人手不足のため休業を餘儀なくされた料理店[illegible]、同市では既に二十日以來の分まで配給してゐる

國境買出　サンデイエゴでは數千の市民は最近米墨國境を越えてメキシコ領內に殺到、手あたり次第食料品を買ひまくるといふ國境買出風景を現出してゐる



敗れても敗れてもなほ反抗に大童

英の彈壓に抗爭

印度人經營新聞の休刊

【イスタンブール六日發同盟】ニューデリー來電＝全印度新聞編集者の[illegible]會議で百五十餘の印度人經營新聞は印度政府の新聞統制に反對するとの名目の下に六日朝刊から一齊に休刊した

【リスボン六日發同盟】インドの新聞界は愈々六日からインド政府の新聞統制に對し一齊休刊の新戰術を以て抗爭を開始したが、ニューデリーからのロイテル電報は六日左の通り報道してゐる

インド人所有の新聞約百五十紙は政府の新聞政策に對する抗議として六日一齊に休刊した、休刊した各紙の中には英字紙もあれば印度語の新聞も交つてゐる、カルカツタのステーツマン紙は依然發行されてゐるが、インド政府と新聞界との間に居中調停する用意あることを表明すると同時にインド政府とインド各紙との紛爭が從來とも個性を缺いてゐた事實を認め政府だけが惡いのではないが、新聞がいろいろと言つてゐたことは事實だと述べてゐる

因みにステーツマン紙はインド政府の機關紙と目される英字新聞だが同紙が政府のやりくちを非難してゐる事實に注目してもインド各紙の抗爭は相當深刻と解される

印度民衆餓死に陷る

惡虐英の食糧收策

【バンコック六日發同盟】インド國立會議派本部ではインドの食糧不足問題深刻化の責任は英國の食糧政策にあることを論難し[illegible]のインド人飢餓者を[illegible]六日左の如き聲明を發表した

[illegible]のインド大衆が餓死せんとしてゐるのに冷酷非情な英國人は[illegible]インドの穀類をどんどん國外に搬出してゐる、この事實はニューデリー放送でも認めてゐるが、これは英國人がインド大衆から食糧を奪ひかへつてこれを國外に搬出する[illegible]も[illegible]がパンジャブ州[illegible]ンゴール、ボンベイ、マドラスなどの各地方が[illegible]な狀態に陷つてゐることを[illegible]てゐる、インドでは[illegible]二十七日頃[illegible]の小麥その他[illegible]、然るに英國人は[illegible]作つてゐるインド大衆は[illegible]に居ながら[illegible]のだ、英國人は[illegible]しながらインド人の[illegible]を[illegible]してゐる[illegible]世界の五分の一の人口に[illegible]は英國人のみである、英國人のインドに對する政策は一口に言へば「インド人は永久に英國の[illegible]に[illegible]し[illegible]」そして英國の[illegible]を援助せよ[illegible]ざれば死する[illegible]を[illegible]と[illegible]のだ

決戰の火蓋切る

チユニジア戰線激戰

【リスボン七日發同盟】チユニジア戰線からの情報を綜合するに英米軍並びに[illegible]とともにマットールとメジエズ・エル・バブの線を突破[illegible]に兵力を集結してゐるが[illegible]早くも決戰の火蓋が切られた模樣で[illegible]マットール西方十五粁の[illegible]に猛烈な砲擊を加へて六日以來[illegible]が展開されるに至つた、反樞軸軍は有力な部隊を以て[illegible]の下に樞軸軍の占據する高地の陣地に[illegible]兵力を集結して來たが、樞軸軍は敵を引寄せて一擧に殲滅する企圖に出て六日[illegible]に對して大攻擊を與へたと傳へられる、六日のロイター電も[illegible]を認め反樞軸軍はチユニジア戰線における獨軍の最も精鋭な部隊と交戰してゐると報じてゐる

民族の特性抹殺せず

獨逸の占領地文化工作

【東京電話】南方占領地の諸文化工作について日本のとりつつある方策は、すでにあらゆる機會あらゆる機關を通していろいろの角度から內外に發表されてゐるが、我が日本の南方占領地文化工作と全く同じ立場、同じ立場に於てドイツも亦その占領地に對する積極的な文化工作に邁進しつつある、我々の方策を考へるについての格好の他山の石として以下ドイツの文化工作を探究しよう

高度の彈力性

ドイツは歐洲新秩序建設のために歐洲各國がドイツを中心として互に文化的に結ばねばならないと主張し占領各地の政治、經濟工作とともに文化工作をも進めてゐるが、戰時の緊迫した環境の下では政治經濟工作が第一義的とされ、ここに重點がおかれてゐるので、歐洲諸國家も占領地文化工作に關する記述は極めて少い、元來文化關係は政治關係や經濟關係に比し非常に微妙で人種の文化生活においては政治經濟より却つて相違點の方がより決定的な力をもつてゐる場合すら多いので文化を異にする多くの民族を包含する占領地に對し如何なる民族政策をもつて臨むかについては未だ確乎たる政策も出來ないやうである、從つて現在の占領地に對する文化工作は占領地住民の文化と民族性を中心とするものでその主眼は占領地國民をドイツが文化的に如何に優れてをり指導國家としての資格をもつてゐるかを認めさせ心から協力を得ようとする點にある、しかもその文化工作に現れてゐる基本方針は[illegible]の一元化を强要する餘り各民族の文化的特性を抹殺することなく出來るだけ各占領地の言語、文化、習慣などその土地民族の生活文化を尊重しつつ、獨英ドイツ文化の[illegible]ドイツ文化の優秀性を[illegible]させようとするところに高度の彈力性が認められる、しかし一方ドイツはたとへ文化部門においても[illegible]における自由主義的[illegible]との[illegible]觀念を[illegible]する如き[illegible]などには極度に排除する方針をとつてゐるので、この方針は占領地の既存文化に思ひ切つた大鉈が振へられ[illegible]を惹起してゐる、かかる方針に沿つて占領地文化工作を推進するためドイツ政府は本國における文化工作の[illegible]や方針を出來るだけ[illegible]且つ多方面に[illegible]するものとすると同時に他方これに協力する現地の[illegible]や組織を自由でかつ[illegible]なものにしてゐる

言語政策

占領地文化工作のうち最も重要な政策の一つは言語政策であるが、これに關して最も[illegible]のは[illegible]倂合した占領地域をば可及的速かにこれをドイツ化する方針をとつてゐるためこの種の地域においては一斉にドイツ語の使用が强制されてゐる、例へば現在最もドイツ化運動の行はれてゐるルクセンブルグでは一九四〇年八月二日附の[illegible]令でコブレンツ・トリル區ナチス黨支部長グスタフ・ジモンが同地方の民政長官に就任するや、ドイツ語をもつて唯一の公用語と定めると同時に同長官は直ちに「ルクセンブルグ國」または「ルクセンブルグ公國」なる文字を公文書に記載することを禁止した、次いで一九四〇年九月三十日にはドイツ語をもつてルクセンブルグの通用語とするとともにフランス語の使用禁止する旨の命令を公布し民政長官自ら次のごとくラジオ演說を行つて一般民衆の實行を勸說してゐる

[illegible]フランス語は既に一八三九年以來ルクセンブルグの第二國語にまでなつてゐた、ルクセンブルグ人の中にはフランス語を好んで話すものもゐるが、これら親[illegible]はもはやルクセンブルグには用のない者である、ルクセンブルグの方言は認めるがこれは勿論ルクセンブルグの政治的獨立[illegible]とは何等關係はない

かくてフランス語は國民生活の[illegible]から姿を消し、その代り一切ドイツ語によつて[illegible]が行はれ[illegible]においてはドイツ語の使用が强制され公用語は勿論ラジオ放送、新聞などもすべてドイツ語によらなければならないことになつた、勿論フランス語の通用語としての使用を禁止したといつても[illegible]の[illegible]上、その[illegible]からフランス語の使用者に[illegible]し[illegible]をもつて臨んだのではない、ただ「使用禁止」といふ原則を立てて速かにドイツ語への[illegible]を[illegible]つた結果を出でないかつたのである、しかしこの結果は他の方面におけるドイツ化運動と[illegible]してルクセンブルグのドイツ語普及は非常な成功を收め、民政長官は[illegible]するため從來公認してきたドイツ語系の所謂「[illegible]文字」の使用をやめ、より[illegible]なラテン文字を使ふことになつた旨を發表し先づその第一步としてドイツ各新聞紙は[illegible]六月三日附のから[illegible]文字を使用してドイツ語の普及に努力することになつたが、ドイツ語をどの程度占領地住民に使用せしむべきかの具體的[illegible]については各占領地の性質によつて種々差異がある、ドイツは[illegible]倂合した占領地域をば可及的速かに[illegible]

既にドイツ語は議會は勿論、地方でも一般の通用語となつた、エルサス・ロートリンゲン地方でも同樣、ドイツ語の使用が强制されてゐるが、この地方の住民は歴史的にはフランスの治下に、又或時はドイツの治下に立ち、その都度、それぞれの國語を强制されて來たので、その多くは[illegible]國語に通じてゐるため、言語問題はルクセンブルグの場合より[illegible]な[illegible]をみてゐる、しかし同じく倂合地域であつても[illegible]・ゴースラヴィア[illegible]の一部であつたウンターシュタイエルマルクやケルンテンおよび北クライン地方のごとく住民の殆ど全部が異民族たるスロヴェーヌ人で、しかもルクセンブルグやエルサス・ロートリンゲン地方とは異り從來ドイツ文化やドイツ語に接することが[illegible]かつた地方に對しては、[illegible]なドイツ化政策は却つてその民族[illegible]を害するものとして、なるべく避ける方針がとられてゐる、從つてこの地方では[illegible]を[illegible]化する[illegible]措置がとられ、例へばウンターシュタイエルマルク地方では民政長官令をもつて、[illegible]國の「シュタイエル[illegible]」に[illegible]され、この地方の住民をヒトラー總統とドイツ國と[illegible]

誠を[illegible]なドイツ國民として[illegible]することに努めてゐる、かかる地方の事情に[illegible]する[illegible]はその言語政策の上にも現れルクセンブルグの場合に比し、一般[illegible]その言語政策の[illegible]ではドイツ語を[illegible]へることを[illegible]されてゐるにも拘はらず、通用語は勿論公用語、ラジオ放送、新聞用語などはいづれも地方語とドイツ語との併用が認められた、即ち住民に對する法律、規則、布告、告示、告諭などの文書、總て官廳に提出する願書、屆書、訴訟などを初め公の會議および[illegible]會の用語などは、ドイツ語か、地方語かの何れかによることにしたのである、國際倂合地域以外の占領地の場合にも、初めはドイツ語[illegible]がとられ、ボーランドにおいては、一切ドイツ語による新聞を廢め[illegible]に於けるボーランド語の使用をささなかつたのであるが、それがかへつてボーランド人の反感を高めドイツ語[illegible]の一部を[illegible]したのであつた、從つてその後ドイツ政府は言語政策の一部を是正して、一般占領地においてはドイツ語を必修科目のうちに加へる[illegible]または[illegible]として加へる[illegible]にとどめ、公用語および通用語などを初め新聞、[illegible]もことごと[illegible]

く原則としてその地方々々の言語によることになつてゐる

ドイツのラジオ放送局は、その優秀な性能を利用して、ドイツと占領地各地とを[illegible]化的連絡を開設し、日々ドイツ語とそれぞれの國語とで送られる放送は占領地の津々浦々まで[illegible]ドイツ文化の高い[illegible]を[illegible]とにドイツ語を浸潤させながら北はノルウエー北端から南はアテネに至り、さらにクリミヤからスペイン國境に至る[illegible]放送による[illegible]のない報道陣を張つてゐる

占領地における一般文化工作ならびにドイツ語の普及は、[illegible]を中心として行はれてゐるが、この方面の[illegible]工作も最近[illegible]進歩し、一九四一年十月一日にはオーストランド[illegible]で國民學校[illegible]が開設したほか、最近[illegible]が[illegible]れたばかりのクリミヤ半島地區で[illegible]さへ國民學校五、[illegible]、[illegible]院四、歯科醫院三、[illegible]六[illegible]四[illegible]といふ[illegible]な文化[illegible]の[illegible]を示してゐる、勿論これらの[illegible]およびに[illegible]用語はそれぞれの地方語が用ひられ、ドイツ語を[illegible]してはゐない

藝術界の活躍

[illegible]な藝術家多數を[illegible]に[illegible]つてゐるにも拘らず、ドイツ文學その他の藝術界は[illegible]以來[illegible]な活動を續け、文學界はその價値高き作品のうちに[illegible]の[illegible]を[illegible]り込んだ作品を[illegible]し、これを各國語に[illegible]して占領各地へ送り込んでゐる、

またドイツ文學界と占領地文學界との[illegible]を[illegible]化するため、ワイマアール文學者大會で「歐洲文學者聯盟」なるものが生れたが、同聯盟はユダヤ精神やボルシエヴイズムや金權主義のやうに文化を破壞するものを根絶し、ゲルマン的、歐洲的文化の建設を目的とするものである

映畫界および音樂界の占領地進出も著しく演劇方面ではカイーン[illegible]團を初め、ドイツ一流の演出家ハインリツヒ・ゲオルク・マイスナーなどが占領地各地を訪れてドイツ演劇を紹介し、音樂界もまた同樣な活動を續け一九四一年八月ノートルダムで行はれた[illegible]會や[illegible]會のごときはフランス人の[illegible]を[illegible]した、演劇、音樂方面では最近ドイツ側と占領地[illegible]の[illegible]名[illegible]との共同[illegible]などが行はれ、その[illegible]が大[illegible]に[illegible]りつつあることを示してゐるが、中でも名指揮者メンゲルベルグのごときは政治[illegible]を[illegible]して、新[illegible]建設のために[illegible]してゐる

ノルウエーやバルカンのやうに從來藝術活動が不活潑だつた國でも、ドイツの指導の下に[illegible]や音樂會が開かれ、ソ聯占領地でも宣撫工作と並行して、[illegible]な文化活動が行はれキエフでは既にオペラや私立交響樂團が組織され、小都市ですら[illegible]が復活してゐる、ウクライナでは[illegible]たる傳統的なコーラス隊が復活しシーズン開きの一九四二年九月には十八のコーラス隊による大公演會が開かれてゐるほどである

映畫界は一九四一年末設立をみた「國際映畫協會」の[illegible]などとともに[illegible]の映畫[illegible]は[illegible]く行はれることになつたが、[illegible]工作と[illegible]して[illegible]ドイツの[illegible]は[illegible]いものがあり、現に[illegible]各地に[illegible]中心に映畫の占領地進出は目ざましく[illegible]はドイツ系映畫會社が[illegible]新設されてゐる、ただ演劇、[illegible]、音樂などにも言語を異にするといふ大きな[illegible]があるが、ドイツは[illegible]りこのギャップを各地方語によつて[illegible]し、[illegible]を通して占領地住民にドイツ語を[illegible]し[illegible]占領地を[illegible]する[illegible]を[illegible]近[illegible]し、一九四一年九月から十一月までに一萬四千人の多數に上つてゐるが、それらの多くは音樂家でこれらが持ち込むドイツ歌曲もドイツと占領地とを文化的に結ぶ重要な役割の一部をなすものである

人事

◆木村[illegible]氏（[illegible]）[illegible]理事と共に七日台中へ

◆[illegible]氏（[illegible]）八日來北

◆[illegible]氏（[illegible]）七日來北

通信辭令【東京電話】[illegible]
任遞信局技師（三）[illegible]
[illegible]

化學的超微粒子芯
最高級製圖用
トンボ鉛筆
8000
一本　二〇セン
課[illegible]十六等級
東京　株式會社トンボ鉛筆製作所

病の膏
せきずる
カリエス　骨炎
神經痛　リウマチ
[illegible]
元木家傳藥房
[illegible]

この効果！
先づ●胃腸を强くして●消化を早め●食慾を增す。次に●食べた物をすべて榮養化して●便通をよくし●その結果として頭痛、吹出物高血壓等を防ぐ。更にヴヰタミンB1、アミノ酸の作用により●榮養を補ひ●治病力、恢復力を强め●幼兒の發育を助成する。
一月分　三六〇錢　一円五〇錢
試藥進呈
胃腸强生・酵母にまさるビルツ劑
ホシ　ミクローゼ
東京・五反田　星製藥株式會社

妊娠時に
高單位B1＋他B複合體
……エビオスB1錠の投與は胃腸强健、脚氣症狀、倦怠などを矯正し、全身的に榮養を佳良にするのみならず妊娠脚氣、妊娠性神經炎、その他ビタミンB1缺乏による障碍を是正し……妊娠經過を良好ならしむ。
エビオスB1錠

よい電球で無駄をはぶき——生產力に振向けませう
同じ明るさで電力2割節約できる——二重コイル
マツダランプ
東京芝浦電氣株式會社

若人錬成、生産擴充に
學徒を動員集團造林
千甲歩を設定淨汗作業

[illegible]

體力

[illegible]

造林

[illegible]

實施

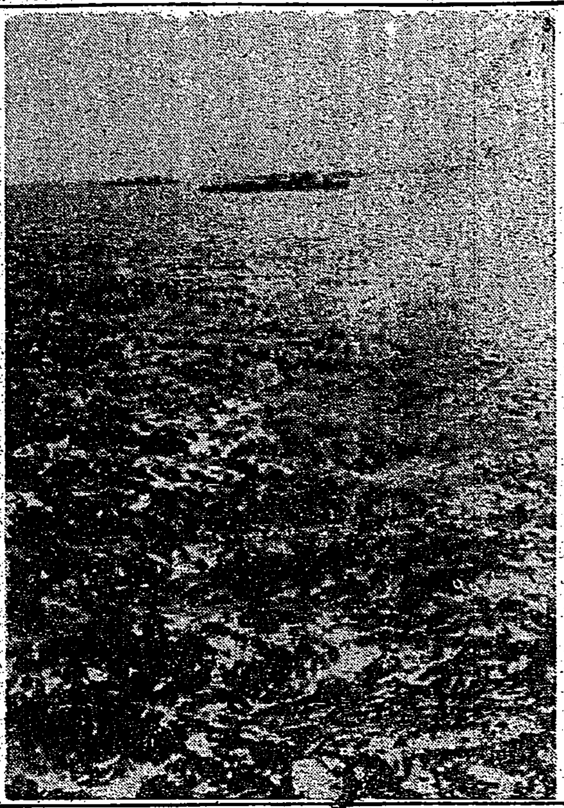
[illegible]

南方施策へ協力

[illegible]

產業戰士慰安映畫會

[illegible]



暮色迫る南海の基地を出撃せんとする我が水雷戰隊

[illegible]

國民貯蓄急速に增强
臺北市　貯蓄專任推進員を正式委囑

[illegible]

一月

一、一月の常會を國民貯蓄成績向上の常會とすること

二、十二ケ月分完了を期すること

三、前期貯蓄の組合中各組合の實狀に應じ適切なる指導をなすこと

二月

一、一月の推進狀況

二、國民貯蓄實施の徹底

三、國民貯蓄完了組合の報告並完了票の交付

三月

一、二月の推進狀況

二、完了組合の發表

臺北支部　參與奉公委員會
九日臺北公會堂に初會合

[illegible]

說明

[illegible]

我等州民に率先し志願兵志願に垂範
新竹神社に若人ら奉告祈願

【新竹電話】[illegible]

宣誓

[illegible]

擧島必勝體制强化
近く全島市議協議會を開催凝議

[illegible]

創業明治十四年
日本ペイント
大阪　東京　奉天　台北　天津

戰歿校友を欽慕
あす忠魂碑の除幕式

[illegible]

八紘爲宇の大精神發揚の中心地"臺灣"
神祇院祭務官　飯田氏來臺談

[illegible]

御楯

[illegible]

中共抗日大學を暴く
移動教室に赤い教鞭
彷徨する哀れ數千の學生

【北京同盟】[illegible]

「紅大」から「抗大」へ

[illegible]

抗日學生氾濫

[illegible]

抗大の東進

[illegible]

學生即紅軍の抗大

[illegible]

哀れな移動教室

[illegible]

運命を共にする學生

[illegible]

高雄州下中、青學校聯合演習打合會

[illegible]

市郡支會長會議

[illegible]

皇軍慰問野球大會

[illegible]

登山とハイク　十日

[illegible]

今夜の番組

第一放送

[illegible]

三國志
(942)
（赤壁の卷）
吉川英治作
矢野橋村畫

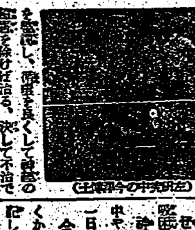
笠（一）

[illegible]

南の凱歌
長田幹彦著
[illegible]
奥川書房

結核
患者へ告ぐ
眞劍な努力の集積
[illegible]

ぜん息・神經痛
高血壓
中風
今津博士の素晴しい研究
不治でない
[illegible]



血液酸毒症とは
[illegible]
コロイド製藥株式會社
ビオカルク

女性强壯
國產女性ホルモン
エスチモン
[illegible]

クロバー
高級口紅・ホホ紅
東京・大阪　三葉商會

臺灣日日新報
本日夕刊共十頁

けふ大詔奉戴日一周年

詔書

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ皇祚ヲ踐メル大日本帝國天皇ハ昭ニ忠誠勇武ナル汝有衆ニ示ス

朕茲ニ米國及英國ニ對シテ戰ヲ宣ス朕カ陸海將兵ハ全力ヲ奮テ交戰ニ從事シ朕カ百僚有司ハ勵精職務ヲ奉行シ朕カ衆庶ハ各々其ノ本分ヲ盡シ億兆一心國家ノ總力ヲ擧ケテ征戰ノ目的ヲ達成スルニ遺算ナカラムコトヲ期セヨ

抑々東亞ノ安定ヲ確保シ以テ世界ノ平和ニ寄與スルハ丕顯ナル皇祖考丕承ナル皇考ノ作述セル遠猷ニシテ朕カ拳々措カサル所而シテ列國トノ交誼ヲ篤クシ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ之亦帝國カ常ニ國交ノ要義ト爲ス所ナリ今ヤ不幸ニシテ米英兩國ト釁端ヲ開クニ至ル洵ニ已ムヲ得サルモノアリ豈朕カ志ナラムヤ中華民國政府曩ニ帝國ノ眞意ヲ解セス濫ニ事ヲ構ヘテ東亞ノ平和ヲ攪亂シ遂ニ帝國ヲシテ干戈ヲ執ルニ至ラシメ茲ニ四年有餘ヲ經タリ幸ニ國民政府更新スルアリ帝國ハ之ト善隣ノ誼ヲ結ヒ相提攜スルニ至レルモ重慶ニ殘存スル政權ハ米英ノ庇蔭ヲ恃ミテ兄弟尚未タ牆ニ相鬩クヲ悛メス米英兩國ハ殘存政權ヲ支援シテ東亞ノ禍亂ヲ助長シ平和ノ美名ニ匿レテ東洋制覇ノ非望ヲ逞ウセムトス剩ヘ與國ヲ誘ヒ帝國ノ周邊ニ於テ武備ヲ增強シテ我ニ挑戰シ更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ラユル妨害ヲ與ヘ遂ニ經濟斷交ヲ敢テシ帝國ノ生存ニ重大ナル脅威ヲ加フ朕ハ政府ヲシテ事態ヲ平和ノ裡ニ回復セシメムトシ隱忍久シキニ彌リタルモ彼ハ毫モ交讓ノ精神ナク徒ニ時局ノ解決ヲ遷延セシメテ此ノ間却ツテ益々經濟上軍事上ノ脅威ヲ增大シ以テ我ヲ屈從セシメムトス斯ノ如クニシテ推移セムカ東亞安定ニ關スル帝國積年ノ努力ハ悉ク水泡ニ歸シ帝國ノ存立亦正ニ危殆ニ瀕セリ事既ニ此ニ至ル帝國ハ今ヤ自存自衞ノ爲蹶然起ツテ一切ノ障礙ヲ破碎スルノ外ナキナリ

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

御名御璽

昭和十六年十二月八日

各國務大臣副署

繰上閣議

【東京電】七日の繰上閣議は午前十時より首相官邸に開会、東條首相以下各閣僚出席、先づ十八年度豫算案に關し[illegible]相より說明あつて審議に入り午後も審議を續行した

比島作戰に武功赫々

感狀上聞に達せらる

堀、山崎兩大尉、鈴木少尉

【東京電】比島作戰に偉功を立てた野々村春水軍曹、滿水與市伍長及び青木義太郎上等兵の三下士官兵に對する感狀が畏くも天聽に達した旨去る一日陸軍省から發表されたが今回更に比島作戰に武功赫々たる堀貞夫大尉、山崎忠勇大尉及び鈴木福二少尉の三將校に對する感狀が畏くも上聞に達した旨陸軍省から發表された、堀大尉は偵察飛行中隊長として比島攻略戰の空からの目となり率先果敢な偵察をなし遂に壯烈な戰死を遂げ山崎中尉は森田步兵部隊中隊長としてバタアン攻略戰の第一線に參加敵陣地に白刃を揮つて突入、サマット山東側一帶の敵陣地崩潰の端緒を作り又鈴木少尉は松田部隊の第一線小隊長としてマニラ攻略に參加し頑強な敵の火線を衝して敵陣地に突入、敵左翼の潰走を誘致するなど夫々抜群の偉功を建て皇軍指揮官の龜鑑として本間最高指揮官から感狀を與へられたものである

陸軍省發表(一月七日一六時) 比島攻略戰において武功抜群なりし陸軍大尉堀貞夫及び陸軍大尉山崎忠勇並びに陸軍少尉鈴木福二に對し曩に同方面陸軍最高指揮官より夫々感狀を授與せられしが今般畏くも上聞に達せられたり

感狀

偵察飛行中隊長　陸軍大尉　堀　貞夫

右は比島作戰開始以來常に先頭に在り各種困難なる任務を遂行し遺憾なく空地一體の實を發揮せり、特に十二月二十一日バクノタン附近に於ける田中部隊の敵前上陸に際しては猛烈なる敵火を冒して地上に協力すると共に果敢なる銃爆撃を反復して敵を壓倒し[illegible]を破壞せんとするや敵火を被り搭乘機は發火炎上す、大尉は沈着[illegible]附近の海岸に不時着陸し數ケ所に負傷せるもこれに屈せず徒步敵中を突破して地上部隊と連絡を遂げ夜陰更に百餘粁を走破して基地に歸還し中隊翌日の出動を部署せり

又十二月三十一日敵軍バタアン半島方面に退却中なるを發見するやヘリウアダ附近に在る未占領の飛行場に着陸し地上部隊先頭部隊に連絡し敵の退路遮斷に關する意見を具申し或は一月二日マニラ市飛行場に着陸し地上部隊のマニラ進入前後に於ける情勢を確認して速に軍の作戰指導に貢獻する所極めて大なり

然るに一月三日タカバナツアンに於て[illegible]後二線[illegible]交戰し遂に壯烈なる戰死を遂げたり以上大尉の行動は[illegible]任務を完遂せんとする旺盛なる責任觀念の發露にして武功抜群偵察中隊長として又空中勤務者として眞に皇軍將兵の龜鑑たり仍て茲に感狀を授與す

昭和十七年六月二十八日

比島方面陸軍最高指揮官　本間雅晴

感狀

森田步兵部隊中隊長　陸軍大尉　山崎　忠勇

右はバタアン攻略戰に參加し四月五日サマット山東麓に於ける敵第二線陣地の攻擊に方り尖兵中隊長となり[illegible]に敵警戒陣地を前面より急襲攻擊す

次で主陣地の攻擊に移るや第一線中隊長となり[illegible]に拠る敵に對し步兵火力を以て敵陣を壓倒せざるべからざるの狀況に於て常に率先陣頭に立ち彈雨の下決死猛攻忽ちにして敵陣の一角を奪取す

當時部隊主力方面の戰況膠着の如く進展せざるを知り遂かに敵の右側背を[illegible]して敵陣を打破するに[illegible]以て敵陣地崩潰の端緒を作り以てサマット山東麓一帶[illegible]

以上の行動は旺盛なる攻擊精神と[illegible]崇高なる[illegible]とを發露にしてその武功抜群眞に皇軍指揮官の龜鑑たり

仍て茲に感狀を授與す

昭和十七年六月二十八日

比島方面陸軍最高指揮官　本間雅晴

感狀

松田部隊　陸軍少尉　鈴木　福二

右はマニラ攻略戰に參加し十二月二十五日ハルプンガン[illegible]附近の戰鬪に於て第一線小隊長として敵陣地攻擊の命を受くるや適正に敵陣地形を[illegible]し[illegible]を[illegible]し小隊を揮げて[illegible]に突入し[illegible]を[illegible]して[illegible]敵左翼の潰走を誘致し部隊攻擊の[illegible]を作せり

以上少尉の行動は沈着にして果敢[illegible]戰術上の判斷適切なるのみならず[illegible]、その武功抜群眞に皇軍指揮官の龜鑑たり仍て茲に感狀を授與す

昭和十七年六月二十八日

比島方面陸軍最高指揮官　本間雅晴

堀、山崎兩大尉略歷

【東京電】堀貞夫大尉 富山縣下新川郡三日市町の出身、昭和十五年航空兵少尉としてノモンハン事件に參加、同年航空士官學校生徒隊附、その後中隊長として南方に活躍

山崎忠勇大尉 高知縣吾川郡伊野町の出身、昭和十二年少尉として滿洲派遣部隊附、同十五年中支派遣部隊附、後南方に轉戰した

西國陸相に動員權

【ベルリン六日發同盟】マドリード來電によればスペイン政府は六日陸相に對し必要に應じ[illegible]を動員する權限を付與する法令を公布したと傳へられる

壯烈・三將校戰鬪經過

【東京電】三將校戰鬪經過

堀大尉

一、バクノタン附近の戰鬪　十二月十九日

ピガンを出發した田中部隊はバクノタン附近で有力な敵の抵抗を受け二十一日朝から敵戰中であつた、田中部隊はこれに追撃したがバクノタン南方[illegible]連絡がつかなかつた[illegible]の時一番機[illegible]

[illegible]

一、マニラ北方の戰鬪

[illegible]

山崎大尉

四月三日バタアン

[illegible]

鈴木少尉

十二月二十四日

[illegible]

南方建設施設を擴充

總額四億四千五百萬圓

歸任の齋藤總務長官談

督府豫算

十八年度總督府豫算案の既成折衝の為上京中であつた齋藤總務長官は七日午後空路歸任直に總督官邸にて約一時間に亘り長谷川總督に歸任報告並に豫算案の經過報告等を爲し後官邸に入り十八年度主なる新規事項等に就き左の如く語つた

昭和十八年度豫算の折衝を終へ一段落として東京十二、三日に及んだ大藏省との折衝の結果要求した內容を申せば十八年度豫算は總力增強主義と效率主義との徹底を期して編成したが特に人員の增加に[illegible]しては[illegible]十一月十四日の閣議決定に[illegible]して[illegible]

その要求に於て[illegible]

主なる新規事項

第一に教學刷新並に皇民錬成に睠する費目としては

△國民學校義務制度實施費　[illegible]

△師範學校制度の刷新　五十三萬圓

△臺北經濟、高雄二女、馬公高女、花蓮水產學校の新設費　二十五萬圓

第二に國民體力の增強に關するものとしては

△保健所(臺北、基隆、高雄)の設置　二十七萬圓

△傷痍軍人療養所新設及び結核療養所增設　六十九萬圓

△玉咲つづら藤及び紅頭つづら藤の增產並に熱研における結核治療研究(檜油)　四十萬圓

△高雄醫學專門學校設立費(三ケ年總額二百五十萬圓の初年度)　三十六萬圓

△熱研におけるデング熱等の研究費　二十五萬圓

第三には工業の振興に關するもので

△工業立地計畫費　十萬圓

△新高工業港促進　百四十三萬圓

△森林、治水事業促進　五十二萬圓

△臭素、ブタノール、フルフラール等の研究費　六十二萬圓

[illegible]

第四に輸送力增強に關して

[illegible]

第五として南方基地施設の擴充に關するものは

[illegible]

重點、効率主義で編成

臺灣の使命達成に萬全

[illegible]

財源に新稅創設か

[illegible]

百廿八機を擊墜破

緬甸方面陸鷲の大戰果

十二月以降

【東京電】對日總反攻を呼號する敵米英は西よりわがビルマ奪回を企圖し東部インドに兵力を集結すると共に空よりは神聖ビルマ領內を擾亂せんとして頻にゲリラ的空襲を行つてゐる、これに對しわがビルマ方面軍は空陸鉄桶の陣を布き陸軍航空部隊は果敢適合の大戰果をもつて休む暇もなく東部インドの要衝を急襲、敵の機先を完封する大打擊を與へてゐるが今一月七日までに判明せる十二月中のわが陸軍航空部隊の戰果を綜合すれば左の如くで敵機の損害は實に百二十八機に及んでゐる、現在各インドにおける敵米英の航空兵力は約六百機、內約三百機は東部インドにあるものと見られるがこれに對するわが方の攻擊による敵の打擊が如何に大なるものかがわかる

帝國陸軍航空部隊の東部インド及びビルマ方面攻擊による十二月中の綜合戰果

[illegible]

我が猛爆に韶關混亂

【廣東七日發同盟】わが陸鷲精鋭は去る四、五兩日大舉して廣東省韶關を空襲[illegible]

[illegible]

竹東油業所產業報國團結成

[illegible]

國民貯蓄組合の總進軍だ

さあ國債と社債で參加しよう

戰時引受會社統制會

日本勸業證券

日興證券

川島屋證券

野村證券

山一證券

藤本證券

小池證券

共同證券

天下一品　一家一瓶
大東亞戰……緒戰のあの感激を新たにし、獻身御奉公を致しませう
ライトインキ

中央公論　新年號　十二月廿日發賣・一圓二〇錢

東方の門　島崎藤村

細雪　谷崎潤一郎

世界大海戰史考……伊藤正德

香談……幸田露伴

數の隨筆……川島孝彥

利久とその時代……小宮豐隆

箱根用水の話……高倉テル

國平聞き書……

蒼生記(小說)　上田廣

今次議會と國民運動……河野密

學問論としての科學……下村寅太郎

近代兵學思想史論……小山弘健

國家總力戰と配分原理……大熊信行

座談會　總力戰の哲學

生産力擴充の前提……田邊眞

出席者　高坂正顯　高山岩男　鈴木成高　西谷啓治

支那の青磁

長田幹彥著　風の舞曲　B6判　三二一頁　定價一圓八十錢

南の凱歌

新嵐の街道

婚の合唱

娘たちの理想

空の花嫁

砲金の指輪

好述の傳

消え行く灯

海底國境

晴れた富士

殘されたもの

本國寺黨の人々

國難日本刀

維新早天錄

開國秘帳

左平捕物帳

孔雀屏風

延元神樂歌

奧川書房　東京・神田

小學館の青少年少女雜誌

青少年の教養と鍊成に！新年號發賣中

勤勞青少年及中等學校初級生へ　青少年の友

主要目次　表紙・曉の海　八紘爲宇　口繪・北の護り　グラフ・航空母艦　グラビヤ・土に生きる　御製謹抄　職場萬葉集　現地を語る

勤勞少女及女子中等校初級生へ　日本少女

主要目次　皇軍慰問袋　南方畫信　年の始めに　思出の正月　日露戰爭頃　蝦の揚物　美しい霧の夜　源實朝　黃金の手　白い馬

東京市神田區一ツ橋　小學館　振替東京四五一〇七

舞踊美論　蘆原英了譯編

佐渡　新風土記叢書3　青野季吉著

日本出版文化協會推薦

續次郎物語　下村湖人著

日本小說代表作全集

小山書店

社説

第十三回大詔奉戴日を迎ふ

苦難克服、凡てを戰爭へ

一

けふは決戰への秋、昭和十八年に明けて最初の大詔奉戴日である。顧れば帝國を以て我れを屈せしめんとした暴戻不遜なる米英に對し畏くも宣戰の詔勅を賜つて茲に正に千有三ケ月を經過した、あの一億國民の血潮を湧騰せしめ、米英撃ちの誓ひを立てしめた、あの昭和十六年十二月八日の詔勅を拜すとき降日に開き現くが吾らの決意は日を閲て愈よ新たに、月を重ねて愈よ堅きを加へるのである。而して緒戰以來畏くも御稜威の下皇軍將兵の出動所因により東に西に南に北に向つて降たざるなく向つて敗ちざるなき世界史上無類き偉勝の戰績を以て今日に及んだ。然も今や大東亞に於ける赫々的建設は餘すところなくこれを確保し、而も資源的にも亦わが大東亞に於て不敗の基礎を築き、同時に大東亞新生復興の大運が動々と盛り上りつつあるは厳たる事實である。

二

然れども敵は古來頑迷不遜を誇るアングロサクソン族であり、然も雑資なる資源と生産力を恃みとして、漸く劣勢に於ける敗戰の退勢から立直り、ソロモン海域に、ビルマに、更に、果ては北阿戰線に積極必死の反攻を企圖しつつある事實は輕視すべきでなく彼らの總反攻に於ても我が侮り難きものがある。殊に敵は不斷頑強にも戰爭目的の一端として我が日本の如き、世界地圖より抹殺、日本民族を殲滅せんと豪語してゐる際に思ひ到らば、吾ら一億國民には、此の戰爭こそ正に喰ふか、喰はれるか、建國聖智、民族の興亡を賭しての決戰であるのだ。斷じて敵を撃滅三千年の皇國を護り奉らねばならない。今年こそは一日と雖も忽如を許さぬ決戰への共日共日、であらねばならない。

三

この決戰への秋、十八年に入つて我々國民に要請されるものは、"勝てる戰爭へ"でなくてはならぬ。然もその綜合力を急速に發揮集中せしめるやう期することが肝要である。然うでなくても、戰力に於ては前線と銃後の別がない。銃後國民の生活の一擧一動が直接前線將兵の戰鬪力に影響する事を知れば今一億國民も共にこの決戰に出陣してゐるといへる。前線の將兵は日頃必殺の鬪魂を以て眼中に生もなく死もない、ただ盡忠の一念以て任務の遂行に邁進する大和魂に徹してゆくのだ。之あればこそ皇國の前に不可能なく世界に敵無き所以である。從つて吾ら銃後に在る者も前線の魂を魂としてこれを生活の中に生かす事を實踐せねばならない。共敵に一家の安否のみを希ふが如き、或は僅かにも戰時生活に於ける不便不自由を託つが如きは斷じて許し得ない。一億國民は勝利の感銘を益々積更に深くし、上も下も官も民も總ての一億をかけて必勝體制を固めるであらう凡ゆる觀點、苦にもめげず之を克服し、國家一途へ、凡てを捧げて邁進しなければならないのであらう。此の十三回大詔奉戴の日を迎へるに當り、その感激と決意を新たにすると共に、新しく勝利の決意に燃えの誓を捧げ、更に長夜を一緒に敢闘する陸海將兵の奮闘を祈り、自ら肉彈のため苦闘見取、適行突破を誓ふものである。

新鋭潜水艦に同乘記

魚雷に獻ぐ祈り、愛撫

忍苦の海底生活○ケ月

【○○基地にて三日野平海軍報道班員發】帝國海軍が世界に誇る新鋭潜水艦に同乘して○ケ月餘、[illegible]に參加した記者はその間勇士とともに潜航の苦を嘗め[illegible]、そして數知れぬ苦の潜航生活を經驗して○○基地に歸還した、以下は記者の陣中記録である

○月○日　いよ〳〵出陣、大空はからりと晴れ青空が群に大きな入道雲がぽつかりと浮んでゐる身をこがすやうな暑さだが艦橋を渡つて來る風は清々しい、空と海は遙か彼方で一線となつて水平線を描いてゐる、申し分のない出撃日和、既に出撃準備全く成り乘組員は後甲板に集合してゐた、總員は部署に就つたと思ふ間もなく艦長の

出港用意の號令につづきラッパを合圖に艦は靜かに動き出した、司令塔艦橋上からは一齊に帽を振る、見送る者も帽を振る、艦長も私もあゝして帽を振つて見送つた、しかし今日は見送られる者の一人だと思ふと身に餘る光榮の感激に胸が疼く、左舷甲板に整列して帽を振る勇士とともに私も帽をふつた、帽をふる勇士の顔には感激の色など微塵もない、ふ實ひと固い決意に輝いてゐる、見送る者、見送られる者、ともに無言で帽を振るだけであるがこの無言の見送りは千萬言の激勵の言葉にも勝る力強いものだ、艦は速力を増し何時か港外に出てきた、晝食は五目飯に瓜の酢物と油揚の入つた吸物が出た、内地を離れて既に○ケ月餘、油揚は殆ど忘れかけてゐた内地の香だ、油揚を噛みしめてゐると何か懐しいものが湧く、その思ひと反對に艦後○○に案内されて艦内を見る、その逞しい姿を秘へてゐる、この魚雷が今に敵の船腹目がけて飛び込むのだと思ふと大きな期待と頼母しさを感じる、當直員は一點の曇も止めまいと默々として磨き、非番員は魚雷と魚雷との間で寢てゐる、魚雷と寢、魚雷とともに生活する發射管員の姿は美しい、酒保物品、或時は菓子、或時はお神酒も戴つた、恐らしいものは一應は必ず魚雷にお供へしてそのお下りをいただくといふ

魚雷に捧げる祈りと愛撫こそは一つの生命となつて魚雷に流れ込んで行くのだ、狹い艦内は見迎す限り機械で埋められそれでなくてさへ息苦しいのに糧食が溢れてゐるのだ、作業と通行に支障のない隙間といふ隙間が通路から机の下寢臺の下まで糧食品で埋まり勿體ない話であるが米、罐詰の上を歩かねばならない、それだけに居住といふことは全く無視されてゐる、兵員室では非番の勇士が或は吊り床に或は機の間に逞しい肢に玉のやうな汗を浮べて寢てゐる、苦痛と思へば潜水艦の生活で苦痛でないものは何一つとしてないだらう、その苦痛を超然の生活として苦痛を超越した勇士の安らかな寢顔を見てゐると悟りきつた人のみが持つ誇らかさを感じた、通路を除く四方と天井はすべてパイプ、ハンドル、バルブ、計器その他種々の機器で埋め盡されてゐる、その一つ一つ否全員の一人一人は艦全體の生命の鍵を握つてゐるが特に發令所は艦を司る所で一つの機械の操作を誤つても取返しのつかない重要な機械ばかりで埋まつてゐる、司令塔を頭腦としたら發令所は心臟部に相當する、すべてのハッチは締められ艦橋のハッチだけが外氣との唯一の連絡路となつてゐる、そのハッチから吸ひ込まれる秒速○○米以上の烈風は凄く、機械室への防水扉を叩いて入らんとしたら何か持つてゐなくては吹き飛ばされて終ひさうだ、ことはまた物凄い

騷音の世界だ、直徑の機械の唸りにザアーッと音を立てて走る換風のため○○長の説明は換風に吹きはされて行く、耳近くで怒鳴つても聞えない機械室ではすべてを指信號で解決してゐる、種々の機械は一通り終つたが暑さと息苦しさそれに餘りにも複雜なので覺えきれさうになつたからと云つて勝まることが出來ないことだけは確かである、操作を一通りやつてどうやら習得して外に出た時は蒸風呂から出て來た時のように顔は上氣してゆでだこのやうに眞赤になり汗で滴てゐたものはずぶぬれとなつてすつた、本艦でありがたいことは浮上中は艦内で煙草が喫へることだ、敵は何時現はれるか判らない

潜航は一秒を爭ふその當直艦橋に一人でも多く上つてゐたらそれだけ潜航が遲れるため喫煙は艦内洗面所で許されてゐる、食後茶碗を終つた時の煙草一本は無聊の生活を慰めるのに大きな役割を持つてゐる、これから先何十日つづくか判らない太陽を見ない生活、暑さとの闘ひ、汗垢、無聊との闘ひの前に何の惡ひさへ見せず朗かに談笑してゐる、士官室を見るとラジオは少國民の時間だつた、既にお國を離れて何千浬、陸影一つ見えない空と海ばかりの洋上でラジオを聞く樂しさ、可憐な少年少女の無邪氣な聲は強い激勵と感じて來る、ニュースの時間になると傍で飛龍長がさかんにペンを走らせてゐる、軍醫長はラジオニュースを聞いてそれを速記、今度はカーボン紙を入れて複寫して兵員室にニュースを傳へる、いはば艦内新聞の編輯長だ

兵隊がこのニュースをどの位樂しみにしてゐるかと思ふと齋合がありますよ

と語つた

口にこそ出さないが良く寄りさうな氣がする、食事の時降りて來た食事が終ると直ちに艦橋に引返し艦橋に坐つたきり身動きもせず鋭い眼を見つめてゐる艦長の姿をみると「艦長殿です」と自然に頭が下る、○○長以下見張員は雙眼鏡から目を離さず水平線の彼方を睨つて敵を求めてゐる、艦の動搖とともに

水平線は變るので一段勞は甚だしい、しかし見張員が一寸でも油斷したら大變なことになる、何れが先に發見するかといふことによつて勝敗が決せられる、それだけに浮上航行中は見張員の責任は重大である、二時間當直に立つと頭腦の緊張で綿の如く疲れる、非番となつて直ぐに眠れたら良いが最初の中は目を閉ぢると腦の中に水平線がちらついて仲々に眠れないとのことだ、次の交代までに四時間、その間に熟睡して次の當直までに疲勞を癒さねばならない、艦内は晝も夜もない、夜學び艦橋に上つたところ依然として艦長は空のままの姿勢でゐるのを見て吃驚した、左舷上空には美しいお月樣、右舷には南十字星が美しくまたたいてゐる、北に傾る尾には北斗七星の中の上部の三星だけがかすかに輝り下部の四星と北極星は既に見えない、水平線はクッキリと見え滿月光が左舷海面の波は月光に照らされ金波銀波を描いて美しい、戰場に向ひつつあるのだといふのが不思議な程平和な氣に溢れてゐる

○月○日　海上時化模樣、就寢[illegible]を感じる、午前三時半潜航のベルで夢を破られる、赤道を越えて○日目、基地を出てからはじめての潜航だ、ジリジリと鳴るベルの音は身が痺れるやうだ、敵を發見したのかと思つて緊張したが試驗潜航とのこと、間もなく浮上した、いよいよ赤道に迫つたのだ、浮上したら風にスコールさへ加はり波浪く時々艦橋の天蓋を越す、見張員はゴム引きの防水衣やゴム引きの防空頭巾を被り眼鏡を濡らすまいと眼鏡を抱くやうに抱へてゐる、天蓋を越えて打入る海水は冷たく見張員は海水をかぶつて艫から入る海水に下着まで濡らしてゐる、南に下るに從つて冷たさを増して來た

海水をかぶりつつ見張をつづける勞苦察するに餘りある、當直を終つて降りて來た見張員を迎へて中にある者達は早く着替をしないと風邪を引くぞと脱衣を手傳つてゐるのを見てゐると涙ぐましくなつて來る、潜水艦の生活は上は艦長から兵員に至るまで同じ釜の飯を食べ同じ食物を喰ふといふ家族的の點がある、士官室と兵員室に別れてこそれ等さに隔りはない、毎日三度々々の食事を同じ釜の飯を喰ひ生死を共にしてゐるのだ、理屈、技術、學者、生死その他すべてが艦長を中心に外界と一切隔離された穴倉の中のやうな生活、潜航中は艦長の指揮に全部を託してゐる、艦長は部下に絶對の信頼と愛情を以て臨み、部下は艦長に全き絶對の信頼を捧げ○名近い乘員の心は一つとなつて一死報國の一念に燃えさかつてゐる、そこには不平不滿もなく雜踏の邪念もないのだ

○月○日　午前四時半目ざめる、相變らず頭痛起し、潜航してゐないので[illegible]めて我だ、既に日出前に潜航、日沒後に浮上する潜航浮航となつてから三日目、暇さへあつたら寢ることにしてゐるが不思議に良く眠れる、殊に潜航中は靜かで睡眠も充く外界と一切隔絶され艦內に起された空氣を淨化するに頼きたい同じく空氣ばかり如何に淨化しても時間の經過とともに濁り

炭酸ガスが多くなつて來るから自然眠くなつて來る、潜水艦では潜航は[illegible]とともに一つの休養法となる、エンジンの物すごい騷音もなく動搖もなく静寂そのものとなる、この間に十分熟睡して疲勞を恢復の生命に備へる、しかし全部が休養といふわけでなく今まで活躍してゐた機械室の代り潜航装置が忙しくなり機械室の當直員は手入に餘念がない、司令塔では哨戒長が時々潜望鏡で四邊を哨戒、發令所では潜航艦手が深度計を見て艦の水平を保ち、聽音室では聽音手が少しの音響でも逃すまいとダイヤルを廻かし、魚雷室では魚雷手入、烹炊所では次の食事に備へて主計兵が馬鈴薯の皮をむくといつたやうに活動してゐる、寢てゐる中に急に鼻先がスウ〳〵して來たので目が覺めたら今度は目がペチ〳〵して眠れないおかしいなと思つてゐたら軍醫長がクス〳〵笑ひながら

今度炭酸を少し出したのが貴方の一所に[illegible]でせう

といふ

[illegible]

○月○日　○○時○○頃午前三時四十分

潜航

"今より湾内偵察に行く"

と知らせられる、基地を出てから○日目、出撃以來はじめての敵陣への突入だ、艦內は重苦しい迄の緊張、潜望鏡を操る艦長の指にも力がこもつてゐる

"變つたことがあつたら直ぐ知らせ"

と再び艦長は怒鳴る、それを發令所から艦内全部に直ちに傳へられる、敵の[illegible]に[illegible]へるための

無音潜航だ　扇風機はじめすべて音源となるものは停止された、咳一つ聞えない死のやうな静けさだ、時計の時を刻むカチカチといふセコンドの響きが耳にやけつくやうだ、艦長は潜望鏡を上げたり降ろしたりしてさかんに索敵してゐる、獲物はゐないのだらうか早く魚雷を發射しないだらうかと強い期待をかけてゐた、艦長が潜望鏡を指さしたので待つてましたとばかりに飛付いたところああ何といふ美しさだらう、船體を白く塗つたマストの高い五百トン位のスマートな船舶が入港せんとしてゐる、陸地を見ると小高い丘には青々とした樹木に囲まれて美しい洋館が點在し朝食の仕度だらう各戸から煙がゆらゆらと立上つてゐる、何と絵に描いたやうな美しさだ、何處に戰爭があるかと思はれるまで平和で長閑な風景だつた、先程までの緊張は一瞬にふつ飛びうつとりとして見惚てゐた、やがて港外に出て潜航に送り防水扉は開かれ扇風機も動き出した、艦長にどうしてやらなかつたのですかと尋ねたところ

あんな小さな商船をやるのには魚雷がもつたいないし後からの行動に影響する、まだ〳〵先が長いのだからその中大きな奴をやつつけるよ

と語つてゐた

○月○日　相變らず頭痛を感じる、近視眼になつたり遠視眼になつたり猫の目の如く變る氣象で海上は時化る、相當南に下つたのだらう、艦橋ハッチから吸ひこまれる風は冷たく流石猛暑の勇士達も寒い寒いを除いて下着を着たした、起きてゐる時も寢る時も同じ物を着てゐるので汗がしみ込みその上濕度が高いのでじめじめとして氣持が惡い、顔の何處でも少しこすると垢がボロ〳〵出る、汁と垢のつかないさつぱりしたものを着たい、風呂に入つて寢たらどんなに氣分が良くなるか判らないと思ふが、認めば限りがない、不自由を苦痛と考へたら堪らない、苦しくなるから考へない事だと思ふが[illegible]ことと寢ることより外に用事がないので自分自身を運動する運動不足で思ひきり手足を伸ばせる所、思つても艦內で手足を伸ばして見たいと思つても[illegible]は一つもない、艦內を歩いたら良いと思つても通路は一人通れば塞がれる位[illegible]、乘員が發令所から艦橋に至る一直線の梯子を上つたり降りたりして運動不足を補ふこととし見張員に協力したら充分[illegible]ばれた氣分になつた、このほか便所のポンプ押も一つの運動であることを發見した

○月○日　水中温度二十三度となり扇風機も[illegible]、[illegible]に上る當直員は毛糸のジャケツを着[illegible]、今夜濁ぐ顔をふく、小さな洗面器に一杯の湯では洗ふことが出來ない、手拭ひを湯にひたして顔を拭くと、面白い程垢がボロボロ出る、傍で機械長が

そんなことをして拭いたら駄目ですよ、何回拭いても限りないからかうしたら良い

と見本を示す、見ると決して手拭ひを顔の上で動かさず押へるだけだ、これが潜水艦の行水なのだ、それでもさつぱりした、平凡で單調な生活の中でかうした少しの變化があるとどの位救はれるか判らない

○月○日　暇にまかせて手當次第に本を讀むが頭を使ふやうな本は駄目どんなに苦しくても良い、本は小説、講談物が愛好される、このほかに漫畫とか雜誌のやうに目で見て樂しむものが良い、それによつてどの位無聊から救はれるか、私は身をもつて經驗した、人間以上に複雜な機械で出來てゐる潜水艦は機械科學の粹を集めた科學の殿堂であるが居住といふことは酷くこれで寢ることが出來ると思ふ程だ、その中であらゆる困苦と闘ひつつ一言の不平不滿も洩らすことなく黙々として挺身する潜水艦乘組員は

盡忠報國の一念だけですべての苦痛を忘却してゐるのだ、その勇士達を慰めるのが一冊の本、一枚の繪、そして音樂でよいのだと思ふと我々の今までの生活は餘りにも贅澤過ぎた、人間である以上新鮮な空氣を腹一杯吸ひたい、さつぱりしたものを着たい、新鮮な魚、野菜が喰ひたい、艦の上でゆつくり寢たいとは誰でも思ふ、その慾望をかなぐり捨てそれ以上の生命まで投げ出して戰ひつづける潜艇の勇士の生活は絶對服從の生活である、私は現在それを目のあたり見つつ感激してゐることを光榮とするとともに若し生きて歸つたら決して贅澤をすまいと心に固く誓つた

○月○日　○○哨戒○日目、朝食後横になつてゐたら知らぬ間に眠つて終つた、突然頭の直上で凄いグワン、グワンと耳もつんざく大きな音がしたので目を醒して起きる、ついでまた二度、艦はグラグラと搖れる一瞬間の出來事である、時計を見ると午前九時、それから約一時間にわたつてドン、ドン、ヘチ、ヘチと二十数分間隔を置いて六回聞えたが爆雷のために後は聞えない、午後一時頃極めて遠くの方で二回聞いたのを最後に

敵の爆雷は終つたらしい、夕食の時艦長が

貴方ははじめてでしたどうしてゐるかと心配してゐたが便所に降りて來て見ると案外落ちついてゐるので安心した

と語つてゐたが私も潜水艦に乘つた時から決して見苦しい死方をしたくない、また如何なる場に遭遇しても決して取り亂したくないと自分自身をひきしめて來たが不思議な程冷靜であつたので自信も出來た、夕食後艦長の語る所によると最初の四發は極めて近かつた、[illegible]であつたが後は遠かつた

爆撃針路をとつて直上に來たのは敵爆撃機だつたか敵は爆彈も爆雷も持つてゐなかつたのか[illegible]、[illegible]を聞いた艦長が潜望鏡を出して見ると上には双發の飛行機が六機編隊入れ代り立ち代り行つたり來たりしてゐる

敵の爆雷にやられて堪るものか、[illegible]さんの前には[illegible]お土産位持つて行かんと

と朗かに語つてゐる、如何なる危機に直面しても冷靜沈着に部署を死守するといふのは佐久間艇長以下の勇士から傳はる傳統精神なのだ、如何なる危機に遭遇しても自己の部署から一歩も離れず死ぬ時は部署で死ぬことを絶對としてゐる[illegible]の勇士と毎日過してゐる[illegible]の出來る現在を光榮に思ひ感謝に思ふ

○月○日　朝食に飛魚が出る、見張員が上甲板を見たら飛魚が三尾上つてゐるのを發見、降りて行つて捕へて見送つた艦內神社にお供へした後頂戴したのだとのこと、新鮮な食物に飢えたこの頃では世の中にこんなうまいものがあるかと思ふ程うまかつた、皆が"うまい〳〵"と云ふのを聞いて航海長は嬉しさうだ、夜航海長の大手柄といふところ、夜八時過ぎ當直を終つた機關長が

大きな夜光蟲が多く時々[illegible]か[illegible]ではないかと冷りとさせられて氣持が惡い

といふので甲板に上つて見ると潜艇一面そして水平線まで夜光蟲が[illegible]、我々から見ると美しく艦を照らして海面に映したやうに光つて[illegible]であるが見張員をしてゐると薄氣味惡いことだらう

○月○日　一日々々と寒くなつて來る、毛布を二枚かけてゐても寒い、見張員は下着を[illegible]着て毛糸の首卷に防寒オーバーを着てゐるがそれでも二時間當直に立つてゐると頭の底から冷たくなり、[illegible]、一人の病人も出ない、時も双眼鏡から目を離すことが出來ない、艦橋に降りることも出來ない、浮上航行中の見張員の苦勞は並大抵でない、潜水艦は甲板が低く狹い、その上[illegible]から十分の見張が出來ないから必死[illegible]である、狹い艦橋で見張りをして[illegible]見張員には敬服せずに居られない

○月○日　時化はますます激しくなるばかり、○○米に潜航してゐるがグラグラと搖れてゐる、太陽の光を見ない生活、罐詰と乾燥野菜、そして乾物の食事が連續の如くつづけられて既に○○日、まだ病人も將兵も一人も出ないが若しあつたら[illegible]、ビタミンC不足から壞血病を起し易いので[illegible]出る者はないか若しあつたら直ぐに來い、と各室を廻つたが一人もゐない、從つて軍醫長は[illegible]て居たら軍醫長がビタミンCを飲ませませうといふので何か藥でも持つて來るのかと思つてゐたら茶と道具一式だ

これにCの含有量が多いです、○○を出る[illegible]、ついたので買ひに行つたところそこの主人に御座勝なことでと食められきしたよ

と語りつつ茶せんを器用に動かしてゐたが一向に泡が立たない

やつたことがないので調子が判らず泡が立たないがビタミンCは泡が立つても立たなくても同じことだから辛抱して下さい

とすすめられるままに御點茶になつた

○月○日　艦內を鼠がチョコチョコと走り廻つてゐるので機關長に話したら

鼠は良く知つてゐて沈むやうな船には居りませんから本艦は絶對大丈夫です

とのことである、軍艦○○にゐた時ねずみが多く鼠を捕へたら半舷上陸とかビール一本の賞品を出して鼠退治をやつてゐたが潜水艦內ではマスコットといふことにならう

○月○日　烹炊所に行つて主計兵から獻立の苦心を聞く

潜水艦では食事が一種の慰安となり士氣にも影響しますのでどうしたら皆に喜んで貰へるかと毎日それればかりに頭を痛めて居ります、生糧品がある中は割合樂ですがその生糧品は行動の○分一にしか過ぎません、後は罐詰と乾物となります、それも品數が多いのなら良いですが、少くいろ〳〵と研究してやつて居りますが仲々思ふやうになりません、目先を少しでも變へてと思つていろ〳〵やつて居りますが思ふやうに出來ず、毎日三度三度の食事を作る度にすまないと思つて居りますが少しも不平を云はれず、却つて"御苦勞さん"と慰められて居ります"おいしかつたぞ"と云はれた時は嬉しくて苦勞何んぞ吹飛ぶやうな思ひです

狹い烹炊所で○○名の乘員の三度の食事を一手に[illegible]、[illegible]一つ使ふにも苦心の[illegible]、[illegible]はすべて宿題であるから[illegible]、[illegible]消費の節約と主計兵の努力は[illegible]りたい"おいしかつたぞ"といふ一言に苦勞を取り戻し何とか出來るだけの工夫研究をして少しでも變化に富み、そしてうまいものを作つて皆から喜んで貰ひたいといふ主計兵の努力は涙ぐましいものである、

○月○日　けふは浮上が日沒後[illegible]根據地通過してからだつた、陸岸近きに來た、午後九時頃[illegible]右二十度に黒い影を發見直ちに潜航、艦長が潜望鏡で見たら島影とのこと、艦隊の前衞か艦船の影でないかと期待をかけて[illegible]のだが、その中艦影も見えなくなり後につづく艦船もなく一時間半の後に浮上する、敵らしい艦にも遭遇せず[illegible]"今日こそは"と思ひつつ武運に惠まれない、海上は時化てゐても空はからりと晴れ中秋の名月のやうなお月様が皎々と輝やいてゐる、潜水艦の發艦には[illegible]、當直を終つて降りて來た航海長曰く

艦橋で當直をしてゐたらこんな句が浮んだがどうでせう

辻斬の困り果てたる月夜かな

これを聞いて機關長が

動作ではめるが仲々良いな、ほんとに氣分は出てゐる

と感心してゐる、潜水艦は敵に姿を見せず襲撃するのが得意の戰法だ、暗闇で待伏して斬る辻斬と同様月夜は苦手だ

○月○日　本も讀んと讀みつくし無聊を感じる、士官室でも兵員室でも寄るとさはると何とか敵に會つてやつつけたい

こんな時一發でも良いからやつつけたら退屈何ぞ吹き飛ぶのだが

水雷長は

兵隊は商船でも良いからやつつけたいと張切つてをりますので焦るな〳〵となだめるのに苦勞します

とこぼしてゐる、艦全體は敵をやつつけたいと思ふ一念にこつてゐる、[illegible]洋上に見えざる敵を追ひ激浪と闘ひつづける苦心それが哨戒につづける潜水艦の毎日である

○月○日　連日の荒天收まるところかますます強くなる、日沒浮上したら今までにない物凄い動搖だ、七百三十八ミリの低氣壓圏内にあるとのこと、艦首が上つたと思つた瞬間には谷底に落されたやうに突込みその上左右の傾斜強く[illegible]何時投げ出されるか判らず、眠れない、[illegible]は『ポン』と大きな音を立て[illegible]、間隙を置いて寄せ來る激浪、その度に艦は[illegible]スクリューが空回轉、艦內のそこら迄でギリ〳〵ミリ〳〵ときしむ音がして、今にペシャンコになるか眞二つになるのでないかと無氣味だ

ハワイでもアリューシャンでも時化られたが、こんなことはなかつた、三角波に近く船體が思ひやられる

○月○日　昨夜以來艦長は艦橋に立つて波の模樣を見てゐたが意を決し午前五時潜航した、艦は木の葉の如く翻弄されてゐるが潜航するにしたがつてますます[illegible]なる、艦長は次のやうに語つた

[illegible]時の潜航は樂しいです、連日の如き時化にもかかはらず全員は些かの疲勞も見せず士氣極めて旺盛、醫學の常識では考へることの出來ないこの不健康な艦內生活を既に○十日、その上連日の荒天にもかかはらず一人の病人、一人の[illegible]のないのは奇蹟といふよりほかありません、危險地帶をくぐる度に[illegible]なるのですからネ

軍醫長が不思議とする勇士達は強い

○月○日　けふは日出より一時間半早く浮上したので艦橋に上つたところ航海長が

野平さん是はありますか

といふので何かと思つたら○十日ぶりに太陽の目を見ない生活で顔白くなつたところに髭が伸び放題となつたので[illegible]のやうに見えるといふのだ、自分自身では決して[illegible]ないと思ふのだが……光線除の眼鏡をかけて艦橋に上つたのだが何十日ぶりかで見る太陽の光は餘りに強烈で目が眩みさうだ、美しい夕やけ三日、青い海、新鮮な空氣と爽やかな風、何とも云へない、ただ嬉しく恍惚とする、何十日ぶりかで陽光を全身一杯に浴びからりと澄んだ大空を見つめグッと腕を張り思ひきり新鮮な空氣を吸ふ嬉しさ、それは長い苦惱の生活の後だけに味はひ得る潜水艦乘の醍醐味である、太陽を見ない中はそうでもなかつたが、艦橋に居る勇士の顔も蒼白く疲勞の色が見える

○月○日　寒さから再び暑さに遭つて來た、頭を休めてゐた扇風機が音をふりつつ動き出し發令所が賑やかになる、發令所で艦橋ハッチから吸込まれる烈風に涼をとりつつ生命をもとめて水面に浮ぶ魚のやうにパク〳〵と口を開かし勞苦と疲勞を忘れる勇士、その一時に蘇つて次の當直に立つのだ、寢室ではとても暑くて眠れず再びソファで寢ることにする

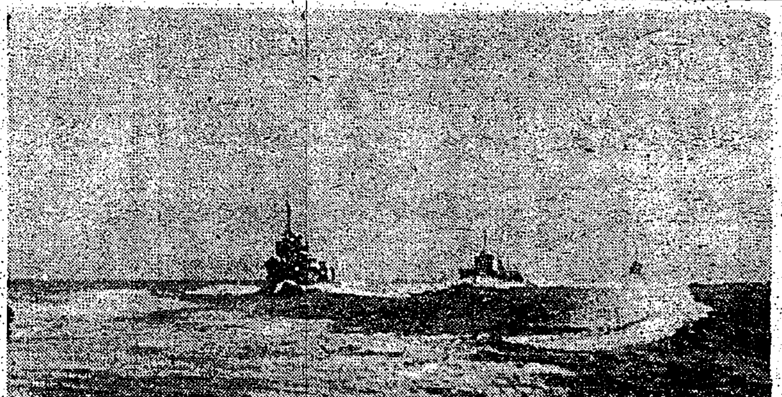
○月○日　既に○○基地を出てから○ケ月餘、遂に○○哩、けふこそは獲物に遭遇するかと思ふ毎日であつたが遂に遭遇することもなく敵地を引上げることとなつた、張りつめてゐた力が一度に拔けたやうに感じる

○月○日　先日までの時化は跡方もなく海上は極めて平穩、[illegible]のやうな氣がする、今日から見張勤務以外に三名づつ艦橋に上ることを許される、長い隔離生活から解放され久しぶりで新鮮な空氣とお日様が拜めるといつて大喜び、艦橋に上つて行くのを見て下から

"早く頼むぜ"

と待ちかねる勇士も如何にも嬉しさうだ、南國の強烈な太陽の直射は目にしみて痛い

○月○日　油を流したやうに海上は靜かだ、正午過ぎ陸が見えるといふので艦橋に上つて見ると右舷に○○島が見える、何十日ぶりかで見る陸影を見ると懐しさと嬉しさで胸が一杯だ、長い漂流生活で陸を發見した時の喜びはかくも嬉しいものであらうと想像される、時々水面を飛魚が器用にピョンピョンと跳ねてゐるのも和やかだ、いよいよ明日は○○基地、夜洗面所で洗身する、石鹸をつけて一度洗つて手拭で拭くと垢が起きて來る、二回洗つたがそれでも駄目なので洗はなかつたら良かつたと後悔したが氣分はさつぱりした、病人なら仕方ないが○ケ月にわたり入浴が出來ないといふことは苦しいことだつた、しかしそれも馴れたら當然の如くなり、人間は一日も早くそれがどんなに苦しい環境であつても順應することによつて救はれる、それは一つの悟りであらう、垢は○ケ月にわたる無聊を慰める一つの玩具であつた、顔、首、腕、足その他の何處でも指の爪で少しこするとボロ〳〵と面白い程垢が落ちる、それを丸めて玉を作つては大きさを比べる潜水艦內の生活、それが無聊の一時を如何に慰めることか、長かつた苦難の生活の終りであつたと思ふと何か懐しく[illegible]と思はれたことが悔いられる（大本營許可濟）



まさに肉薄強襲せんとす我水雷戰隊（海軍省許可濟第七一號）

北邊鎭護の重任

雪海の國境儼たり監視哨

【滿ソ西部國境アルグン川最前線にて國際報道班員三日發】南方の朗らかな凱歌の聲に燃ゆる感激を胸に冷徹の沈默のうちに北邊鎭護に當る皇軍將兵の勞苦を忘れてはならない、記者は[illegible]の好意に依り滿洲里北側の街三河のドラガチテンガから更に北上、滿ソ西部國境のアルグン川の最前線、月の世界もかくやと思はれる雪原の無人境を決死突破し、七卡の最前線哨に今立つてゐる、見渡せば[illegible]雪原のなか銀蛇一線アルグン川はウネ〳〵した姿態を白銀の曠野に流はしてゐる、對岸ソ聯領のピリンスキー部落がわびしく呼吸してゐる、滿洲國の大陸[illegible]興安嶺に發する水流はホロンバイルの曠野を流ひ一曲りしてアルグン國境河川となつてアームルに合流する、このアルグン川こそは西部國境に設された唯一の大自然の要塞であり白雪に覆はれた山容は凍結したからもなほ[illegible]たる妖氣を放散してゐる、七卡の監視哨はこの無人の境にポツリと立てられた北邊の護りの一點だ、記者はヒシヒシとして迫る寒氣の中で戸外に荒れ狂ふ吹雪の音を聞きながらランジと燃えるランプの光を前に冰雪の勞苦を松下○○隊長（陸軍曹長）から聽いた

興安嶺から吹雪が荒れ狂ふその吹雪のなかで國を見張つてゐるのだ、ヤブノロイ山脈と興安嶺の中間を通ふこの地帶は[illegible]一番烈しく監視の兵は防寒具を着てゐても、いつか感覺がなくなり、ともすれば睡魔に襲はれる、眠ると大變だ、[illegible]だ、飲料水はアルグン川から運ぶか冬季は川の氷を叺に入れて運びこれを溶かして飲む、對岸のソ聯兵も同様アルグンから氷を運んでゐるが宿命の國境線で同じ水を飲む、此所は時として國境の觀念を忘れさせたりする、監視哨の軍犬も頑剛な生活に飽きるのか一月に一回交代するが[illegible]、犬も街がなつかしからう、アルグンの結氷が融けると一足飛びに夏が來る、兵の喜びは大變なものでアルグン川に飛びこんで水浴する、またこの時期は魚の産卵期でどの流れも溯る魚群の銀色に光るひれで川底の石も見えない日がつづく、[illegible]もなにもいらない、ドンドン拾ひあげられる、それに魚が下流で手掴みできる、しかし夏は樂みばかりでなく西部國境の蚊群がブンブン兵隊に襲ひかかる、又南京蟲や虱が殆ど眠られぬくらゐの猛烈なゲリラ戰を展開する、この最前線はソ聯とほんの目と鼻の間なのだ、私たちにとつてはこの任務完遂こそ總てなのである、私たち隊員の念頭に常に祖國がしつかりした温い[illegible]私たちの生活を語つてくれることである

記者はアルグン對岸のソ聯を睨み寒の中で寒冷を克服し苦勞と闘ひつつ黙々と北邊鎭護の重任を遂行する勇士たちから銃後の人が識らねばならぬ幾多の示唆を得たのである

188
強力
ルーベリ錠
あらゆる
化膿症
急性慢性 淋病 に
內服短期治療法
淋病は從來の姑息療法では殆んど其効がなく疼痛や排膿は減じても淋糸の消失は容易でない根治困難とされる淋病も注射洗滌等を要せず家庭で短期間に治療目的を達する內服藥が發見された強力ルーベリが即ちそれである
本劑は二基性アミド類と他の賦藥の相乘作用による効力の增加と副作用の一掃に成功したもので單に淋病のみならず左記化膿性諸疾患に應用して著しく治療効果を發揮する
副睾丸炎、前立腺炎、化膿性婦人病、丹毒、扁桃腺炎、中耳炎等
製造發賣元
竹村製劑所

中耳炎
內服により病原菌を克服する化學療法劑
山之內二基ズルフォンアミド劑
アルバジル錠
YAMANOUCHI
中耳炎
扁桃腺炎
感冒
蓄膿症
耳下腺炎
化膿症一般
連鎖狀球菌・葡萄狀球菌その他の病原菌に起因せる耳鼻咽喉科の化膿症に對し本劑は內服により化學療法劑本來の作用を營み
一、病原菌を直接克服し根元的治癒を促進せしむ
二、分泌物、頭重、耳鳴、耳痛、嚥下困難、發熱等の不快症狀を消退せしむ
發賣元
東京・大阪
山之內製藥株式會社
台北市明石町二丁目一番地
P-2

しっぷは…三十分
デルモライツ
感冒
咽喉カタル
濕布は三十分でよい
作用は長時間つゞき
體內の充炎體を誘め
熱を下げ充血を去り
速やかに痛みをとる
理想的濕布療法です
定價
一〇〇瓦　一圓
二五〇瓦　二圓
五〇〇瓦　三圓
株式會社 藤澤友吉商店
大阪・東京・京城・新京

大東亞戰爭日誌

陸鷲桂林飛行場奇襲

十一月二日　支那派遣軍報道部發表＝我陸軍航空部隊は本二日午前優勢なる米支聯合空軍の據る桂林飛行場を攻撃しP四〇型十二機と空中戰を交へ三機を撃墜、地上にあつた敵機を爆破炎上せしめたる外飛行場施設及び燃料庫を爆碎せり、我方全機無事歸還せり

皇軍アリューシヤン確保

十一月十一日　大本營發表＝アリューシャン方面帝國陸海軍部隊は六月上旬諸要地占領以來堅確なる防備の下にこれを確保し、六月十二日以降十月三十一日迄に敵機延べ八十一回にわたり來襲、その三十二機を撃墜せり、我が方の損害左の如し

驅逐艦一隻沈沒、輸送船二隻大破、水上機十五機自爆及び未歸還、其の他軍需施設に若干の損害あり

桂林、零陵飛行場を急襲

十一月十一日　支那派遣軍報道部發表＝我が陸軍飛行部隊は十一日午前大擧して湖南廣西兩省に進攻し、桂林及び零陵飛行場上空に於て米空軍と壯烈なる戰闘をなし確實にその四機を撃墜し三機に命中彈多數を加へたる外地上にありし三機を撃破して全機無事歸還せり

ソロモン群島ガダルカナル島附近敵部隊を强襲

十一月十四日　大本營發表＝帝國海軍航空部隊は十一月十二日晝間ソロモン群島ガダルカナル島附近敵艦船に對し攻撃を敢行し、次いで同日夜間我有力なる攻撃部隊は之に肉薄突入し、所在の敵艦艇輸送船の大半を撃破、尚ほ熾烈なる戰闘續行中なり、現在までに判明せる戰果左の如し

一、我航空部隊の戰果

撃沈＝新型巡洋艦一隻（轟沈）乙級巡洋艦一隻、大破炎上＝輸送船三隻、撃墜飛行機十九機

二、夜間攻撃部隊の戰果

撃沈＝新型巡洋艦二隻（轟沈）大型巡洋艦三隻、驅逐艦一隻、大破＝巡洋艦二隻、驅逐艦三隻

三、我方の損害＝戰艦一隻大破、驅逐艦二隻沈沒、飛行機十數機未歸還

南太平洋海戰詳報

十一月十六日　大本營發表＝十月二十六日南太平洋に於て生起せる南太平洋海戰戰果に關しその後判明せる詳報により既發表の結果左の如く判明せり

一、航空母艦（撃沈）航空母艦エンタープライズ、同ホーネット、大型航空母艦一隻、巡洋艦三隻、驅逐艦一隻、（大破又は中破）戰艦未詳三隻、巡洋艦三隻

二、敵飛行機　我上空要撃により撃墜せるもの五十五機以上、味方上空要撃並びに艦艇砲撃により撃墜せるもの二十五機、その他航空母艦沈沒に伴ふ喪失機數を合し總計二百機以上

（註）ミッドウェー海戰において撃沈せるホーネット型はヨークタウンなりしこと又エンタープライズ型は損傷を受けたることと並びに珊瑚海々戰において撃沈と發表せるヨークタウン型は航空母艦なりしこと判明せり

第三次ソロモン海戰

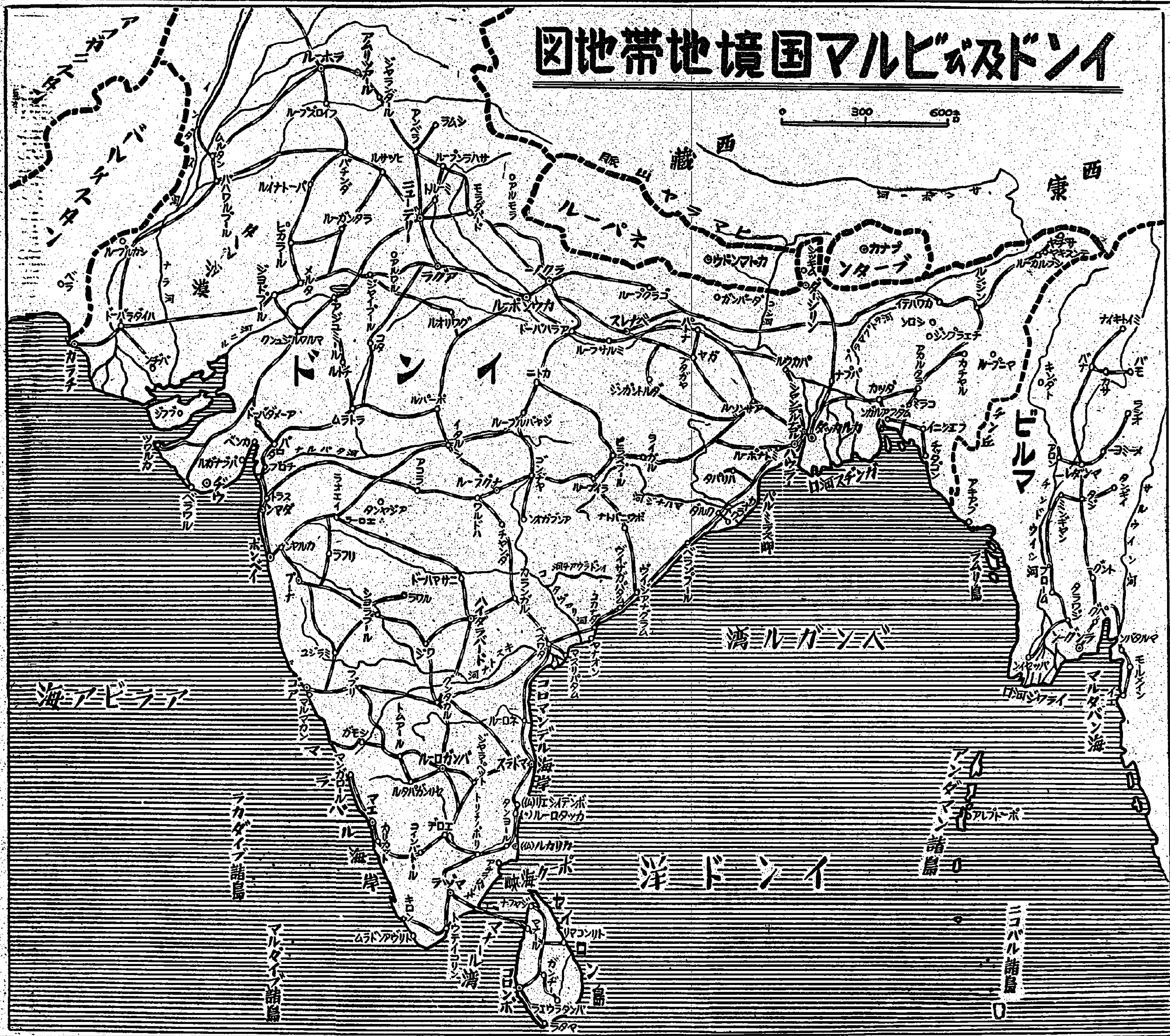
十一月十八日、大本營發表＝十一月十二日以來敵國艦行中の帝國海軍部隊は十三日夜間ガダルカナル島敵飛行場を猛撃、飛行場及びその施設に大損害を與へ、更に翌十四日有力なる反撃を排除しつつ味方輸送船團を護衛中、同日夜間同島の西北方において戰艦二隻大型巡洋艦四隻以上を基幹とする敵有力部隊に遭遇、これと夜戰の結果、この兩部隊の大部を潰滅し戰艦二隻に甚大なる損害を與へこれを南方に敗走せしめたり、現在までに判明せる十二日以來十四日までの綜合戰果並びにわが方の損害左の如し

一、艦船（撃沈）巡洋艦八隻（内新型三隻、内五隻轟沈）驅逐艦四隻乃至五隻輸送船一隻、（大破）巡洋艦三隻、驅逐艦三隻乃至四隻、輸送船三隻（中破）戰艦二隻

二、飛行機撃墜六十三機、撃破十數機

三、わが方の損害　戰艦一隻沈沒、同一隻大破、巡洋艦一隻沈沒、驅逐艦三隻沈沒、輸送船七隻大破、飛行機三十二機自爆、九機未歸還

（註）十二日以來十四日までの海戰を第三次ソロモン海戰と呼稱す



インド及びビルマ国境地帯地図

0　300　600キロ

北支軍十月中綜合戰果

十一月二十一日　北支軍發表＝北支軍十月中の綜合戰果左の如し

交戰回數一四〇〇、交戰敵兵力（延數）一六七、三五〇、遺棄死體八、二八九、捕虜七、八六五、主なる鹵獲品、迫撃砲一八、重機關銃七六、小銃三四一、擲彈筒一四、手榴彈一四、〇三六、なほ本月中における歸順數は山東省の將來軍一萬五千を始め二百五件の多數に達せり、又最近における歸順數を示せば左の如し

昭和十四年一四〇件、昭和十五年四〇七件、昭和十六年九五二件、昭和十七年二、一八一件

（但し昭和十七年は十月末まで）即ち本年の歸順件數は十月末にして既に過去三年間の總計の一倍半に達し、あるは我が方の運動不斷の作戰と軍、政、會、民を打つて一丸とする强力なる各種工作の累積的推進によるものなることは勿論なるも大東亞戰爭勃發以來敵國に與するわが方の大東亞新秩序建設の巨大なる進展による敵抗戰理論の動搖と抗戰意識の急激なる低下を如實に物語るものである

敵機廣東に出現

十一月二十五日　南支軍發表＝十一月二十四日十四時二十分頃ノースアメリカン一二五型四機及びカーチスP四〇型三機の敵機は廣東上空に出現し高高度より爆彈十數個を投下し北方に逃走せり、我が航空部隊及び地上部隊は直ちにこれを邀撃し敵機P四〇型一機を確實に撃墜せり

第三次ソロモン海戰戰果の追加

十一月二十八日　大本營發表＝その後の詳報に依れば第三次ソロモン海戰に於て更に左の戰果を收めありしこと判明せり

一、十二日夜戰に於てわが艦隊は敵巡洋艦三隻を撃沈し驅逐艦一隻を中破せしめたり、同艦に撃沈と發表せる驅逐艦一隻はこれを削除す

二、十四日夜戰に於て我が艦隊は敵戰艦一隻を撃沈し戰艦一隻を大破（沈沒略々確實）せしめたり

同艦に發表せし戰艦中破二隻を一隻に改む

（註）第三次ソロモン海戰の綜合戰果中艦船の部を左の通り改む

○撃沈戰艦一隻、巡洋艦十一隻、驅逐艦三隻乃至四隻、輸送船一隻

○大破巡洋艦三隻、驅逐艦三隻乃至四隻、輸送船三隻

○中破戰艦一隻、驅逐艦三隻

米比軍敗殘兵を剿滅

十二月二日　大本營發表＝比島方面帝國陸軍部隊は既に全比島を攻略したる後、尚僻陬諸地の山地帶に據り蠢動しありし米比敗殘兵に對し引續き討伐を行ひつつありしが既にその大部分を剿滅せり去る八月以降十月に至る三ケ月間の綜合戰果主なるもの左の如し

一、敵の遺棄死體三九四五

二、俘虜二九一八　三、鹵獲品　山砲三門、重機關銃七一挺、自動小銃一〇五挺、その他銃器七四五八挺、各種彈藥約一百萬發、自動車四百臺

ルンガ沖夜戰

十二月二日　大本營發表＝帝國水雷戰隊は十一月三十日夜間ガダルカナル島ルンガ沖合の敵有力部隊に對して夜襲を敢行せり、その戰果左の如し

戰艦一隻轟沈、オーガスタ型巡洋艦一隻轟沈、驅逐艦二隻轟沈、驅逐艦一隻大火災、我が方の損害は驅逐艦一隻未歸還

（註）本夜戰をルンガ沖夜戰と呼稱す

支那方面海軍部隊綜合戰果

十二月七日　支那方面艦隊報道部發表＝大東亞戰爭勃發以來本年十一月二十五日までに收めたる支那方面海軍部隊の綜合戰果次の如し

一、北支方面

（イ）敵に與へたる損害　遺棄死體一四七二、俘虜一八六、撃沈船舶一八七

（ロ）鹵獲兵器其の他　銃砲一二二、檢索船舶四九、一五三

二、中支方面

○上海方面部隊

（イ）敵に與へたる損害　遺棄死體四九〇、俘虜六二八、撃沈艦船二、拿捕艦船二五

（ロ）鹵獲兵器其の他　銃砲一〇四、彈藥一三〇二五、檢索船

○揚子江方面部隊

（イ）敵に與へたる損害　遺棄死體二九八、俘虜八七、拿捕船舶五三

（ロ）鹵獲兵器其の他　銃砲四四、檢索船舶一五六、九九八

三、南支方面

（イ）敵に與へたる損害　遺棄死體一二一、俘虜一五六、撃沈艦船二、拿捕船舶二〇六

（ロ）鹵獲兵器其の他　銃砲二、三〇七、彈藥三〇、〇〇〇、手榴彈三、〇〇〇

四、海南島方面

（イ）敵に與へたる損害　遺棄死體一八七、俘虜一一七、撃沈艦船一二四八、拿捕船舶一〇一

（ロ）鹵獲兵器其の他　銃砲二、五〇七、鹵獲艦船二二

五、我方の損害　戰死二七八、戰傷二七一

陸鷲チッタゴン港を攻撃

十二月十五日　大本營發表＝帝國陸軍航空部隊は十二月五日及び十日印度、チッタゴン港を攻撃し敵艦船及び埠頭施設に多大なる損害を與へたり、本日迄に判明せる戰果の内主なるもの左の如し

一、敵に與へたる損害

（イ）飛行機撃墜十機（内不確實なるもの三機）

（ロ）船舶＝撃沈七隻、大中破十隻、炎上四乃至五隻

（ハ）陸上施設＝倉庫群及び埠頭倉庫に命中彈八、列車炎上一

二、我が方の損害　未だ歸還せざる飛行機二機

海鷲ニューギニアブナ附近戰果

十二月十五日　大本營發表＝ニューギニア島方面帝國海軍航空部隊は十一月二十四日以來十二月八日迄に同島東部ブナ附近において敵飛行機四十四機を撃墜破し、敵哨戒艇二隻及び輸送船二隻を撃沈せり、この間我方の自爆又は未歸還機九機

陸鷲桂林を急襲

十二月十六日　支那派遣軍報道部發表＝陸軍航空部隊は昨十五日午後桂林飛行場を急襲、敵の猛烈なる防空砲火を冒して駐機せる大型敵機四機を爆碎し全機無事歸還せり

陸鷲チッタゴン、フエンニイを攻撃

十二月十八日　大本營發表＝ビルマ方面陸軍航空部隊は十二月十五、十六日チッタゴン及びフエンニイ兩飛行場を攻撃し、敵機二十九機を撃破せる外、同飛行場及びチッタゴン埠頭の主要施設を爆碎し、これに甚大なる損害を與へたり

一、敵機に與へたる損害　撃墜十九機（内不確實なるもの四機）炎上四機、撃破六機

二、我が方の損害　自爆せるもの一機、未だ歸還せざるもの四機

陸鷲カルカッタ初空襲

十二月二十一日　南方軍發表＝我が陸軍航空部隊は昨二十日夜半インド東北部要地を急襲、所期の目的を達成し全機無事歸還せり、所期の戰況並びに判明せる戰果左の如し

一、カルカッタを空襲せる部隊は同市近郊飛行場を爆撃し飛行場には七ケ所にその他には各數ケ所に大火災を生ぜしめた

二、チッタゴンを攻撃せし部隊は同地飛行場を爆撃し三ケ所に火災を生ぜしめその内一ケ所は燃料庫の大火災と認めらる

三、本攻撃期間中敵は照空燈の照射なく又高射砲及び戰闘機の挑戰するもの無し

大烏島に敵機來襲

十二月二十五日　大本營發表＝大烏島所在部隊は二十二日夜ミッドウェー島方面より來襲せる敵B一七、十數機と交戰その四機を撃墜し六機に損害を與へこれを撃退せり、わが方戰死一名、負傷四名、小火災四ケ所其他損害なし

陸鷲東印度攻撃

十二月二十六日　大本營發表＝帝國陸軍航空部隊は東部印度における敵航空基地の攻撃を續行中にして十二月二十一日以降現在までに判明せる主要なる戰果左の如し

一、わが攻撃による戰果

（一）十二月二十二日カルカッタ及びチッタゴン埠頭を攻撃し各々數ケ所に火災を生ぜしめ輸送船一隻を炎上撃破し一隻を撃破す

（二）十二月二十三日フエンニイ飛行場を攻撃、敵機三機（内不確實なるもの一機）を炎上又は大破せしむ

（三）十二月二十四日カルカッタ附近の油槽群及び兵器工場を攻撃し大火災を生ぜしむ

二、わが基地に來襲の敵機に與へたる損害

（一）十二月二十一日アキアブに於て地上火器により敵機二機を撃墜す

（二）十二月二十三日マグウエに於て地上火器により敵機二機（内不確實なるもの一機）を撃墜す

（三）十二月二十四日マグウエに於て空中戰及地上火器により來襲せる敵全機（六機）を撃墜す

三、本期間中同方面におけるわが方の損害は左の如し

炎上せるもの倉庫二棟及び飛行機一機、未だ歸還せざるもの一機

雲南驛飛行場を奇襲

十二月二十七日　南方軍發表＝一、わが陸軍航空部隊は二十五日午後雲南驛飛行場を奇襲し、多大の戰果を收めたり

地上にありし敵機約二十機を捕捉し尠くも六機を確實に炎上撃破せしめたり

二、敵地上砲火は終始沈默又敵の挑戰をも見ずわが方全機無事歸還せり

再び雲南驛飛行場を強襲

十二月二十八日　南方軍發表＝我が陸軍航空部隊は去る二十六日再び雲南驛飛行場を強襲し敵在地上機六機を爆破せる外空中戰において戰闘機P四〇型五機を撃墜せり、我方一機未だ歸還せず

海鷲敵十四機撃墜

十二月二十八日　大本營發表＝ガダルカナル島方面帝國海軍航空部隊は十二月二十三日より來襲せる敵機二十數機をニュージョージア島ムンダ上空に邀撃その十四機（内不確實六機）を撃墜せり、戰果の内容左の如し

グラマン戰闘機六機（内不確實二機）カーチス艦上爆撃機七機（内不確實四機）P三八、一機

本戰闘におけるわが方の損害自爆又は未歸還二機

東印度を強襲

十二月三十日　南方軍發表＝一、我が陸軍航空部隊は二十八日未明チッタゴン飛行場及びフエンニイ飛行場及びカルカッタ郊外飛行場を攻撃し、左の戰果を收めたり

（イ）チッタゴン攻撃部隊は停泊中の二、三千噸級船舶二隻に直撃彈を命中せしめこれを炎上せしめたる外、埠頭倉庫を爆碎、五ケ所炎上せるを確認せり

（ロ）フエンニイ攻撃部隊は飛行場滑走路及格納庫に全彈を命中せしめこれを爆碎せり

（ハ）カルカッタ攻撃部隊は郊外東側の軍事施設地帶を爆撃、二ケ所より大火災を生ぜしめたり

二、本攻撃間カルカッタ及フエンニイ上空において一、二の敵機出現上昇し來りたるも直に離脱しわが方全機無事歸還せり

成層圏飛行

増大する速度、安全度

成層圏飛行といふことが最近熱心な話から注目されてゐる、成層圏とはいかなるものか

一般には地上一萬米の上空は成層圏であるといはれるがこれは正しくはない、我々は地上にあると一平方糎の上に約一キロの壓力をうけてゐるが上層に昇れば空氣の量が減少して五千五百米では約二分の一となり一萬米では約四分の一となる、溫度もまた上空に昇ればなるほど低下して行くがその下り方は大體千米に付き六度〇五位で一萬米位の高空になると零下五・六十度となり、それ以上一萬米位までは變らなくなる此處氣壓四分の一、溫度零下五・六十度のところが所謂成層圏であるが緯度及び季節によつてその高度は變つてくる、即ち南北兩極地では八千米以上、赤道附近では一萬三千米以上の空が成層圏と呼ばれるところとなるのである

さてこの成層圏を飛行すると、どんな利益があるか、氣流が少いので速度及び航續距離が增大し氣象の變化や惡天候がないので安全度が增し、これが軍用機であると照空燈、聽音機に發見されることがなく、たとへ發見されても防空高射砲火のための危險性がないのである

2603
國威宣揚

臺北市幸町百七拾七番地
臺灣畜產株式會社
電話二六一五・二七四〇番

臺北市本町四丁目
共同商事株式會社
電話四四五〇・八〇五五番

國產トヨタ自動車
臺灣國產自動車株式會社
本店
出張所

臺北市本町四丁目
株式會社 共[illegible]社
電話代表八四〇一番

臺灣羽毛輸出振興株式會社
臺北市表町壹丁目廿五番地
代表電話九一三三

田中建物工業株式會社臺北支店
電話八四六四番

臺北州士林街
臺灣製紙株式會社
電話士林一〇〇・七四番

臺北市永樂町壹丁目四拾番地
臺灣自轉車配給組合

臺北市太平町二丁目四十三番地
臺北州下理髮組合聯合會
臺北市太平町二丁目四十三番地
臺北市北理髮營業組合

臺北市本町二丁目
赤木內科醫院
電話二五四九番

臺北市永樂町三丁目二十八番地
臺北勸業信用利用組合

臺北市樺山町七拾番地
臺北倉庫信用利用組合
電話四三五〇番

臺北市新起町参ノ五
臺灣學校工作株式會社
電話六九七〇番

臺北市御成町三ノ十七
臺灣清涼飲料水工業組合

臺北市若竹町三丁目二十七番地
臺北南華僑公會
電話九三一五番

臺北市新起町三丁目十四番地
大同商事株式會社
電話五九一二番

クスリは何んでもある店
臺北市永樂町二丁目
神農氏大藥房
電話一五一七・五八番

臺北市京町一ノ四
杉村 松村庄一組
電話三四〇四番

興亞製鋼株式會社

理研機械工事株式會社臺北出張所

臺北市下奎府町一ノ一四八
臺灣纖維商事株式會社
電話七四九三番

臺北市太平町八拾四番地
東邦プライニウム株式會社

臺北市太平町二丁目八十九番地
臺灣茶商公會
電話三二六五番

臺北市太平町二ノ四六
臺灣洋品雜貨株式會社
電話三三七一番

臺北市若竹町二丁目二番地
臺北州服物商組合
電話六一二四番

臺灣煙草賣捌人組合
臺北支部員一同

臺北市樺山町二八番地
臺北市燃料配給組合
電話五一四〇番

臺北市永樂町
臺灣履物共販株式會社
電話四五八九・四六九四番

東一商事
本店
出張所

株式會社 岩井商店臺北出張所
臺北市表町一丁目二十七番地
電話三二四二番

臺北市榮町三丁目二十二番地
日本樂器製造株式會社
臺灣出張所

臺北市榮町四丁目四番地
株式會社 賀田組

臺北市本町壹丁目參拾八番地
臺灣農機具製造統制株式會社

臺北市京町二丁目十一番地
臺灣清掃具株式會社

日本油脂株式會社臺灣出張所

臺北市表町二丁目十六番地
（大阪商船ビル三階）
臺灣肥料配給組合

臺北市本町三丁目一番地
淺野スレート株式會社臺北出張所
電話二五八七・四一七五番

臺灣味の素販賣株式會社

臺北市京町三丁目四、五、六番地
株式會社 高進商會

臺北市京町二丁目八番地
臺北州鹽詰配給組合

臺北市中崙一九九番地
臺灣燃料機株式會社
電話八八六〇番

臺北市本町四丁目十五番地
臺灣水產物輸移出入組合

天龍木材株式會社
臺北出張所

臺灣全島印刷業組合聯合會

臺北市永樂町五ノ五四
大有物產株式會社

合資會社 西[illegible]公司

合資會社 日光商會
臺北市京町一三一

臺北市京町壹丁目
福岡洋家具商會
電話四六七四番

有限責任 龍江信用組合

中島商會

臺北市榮町三丁目
吉村洋服店
電話六二九番

臺北市太平町四丁目八番地
星加商行

川村インキ 臺北出張所

江里口德市商店

臺北市京町四丁目六番地
東來商店
電話二五九九・一四番

巴商會

臺北時計眼鏡商工組合

神戸組

大東電氣商會
電話五一三四番

臺北市京町一ノ六
谷野文具店
電話三七六四番

戦争生活実践の徹底

大詔渙発のもと、文字通り打ち続く間に皇紀二千六百三年は明けた。この一年間に於て赫々たるわが皇軍の[illegible]るはなくその驚異的戦果に世界中が目をみはつた、この皇軍の大活躍に比べて一面銃後国民も亦よく戦つた、各々その職域職分にまず全力を[illegible]されるに[illegible]し、よく不自由に堪へて協力を[illegible]へ臨けた、だが戦争は未だ終つてならぬ終つてならぬのみか敵は今年こそ反撃へ転ずる年だと呼号してゐる、今こそ我々も浮きかかつた足をじつくりと地につけてかゝらねばならぬ、そして深く〳〵「本年の[illegible]」を知らねばならぬ「立ち上りの[illegible]は[illegible]の不[illegible]にあつた、[illegible]に[illegible]ずべき[illegible]は[illegible]つて来たのだ」とルーズベルトは大[illegible]をあけて[illegible]を叫いてゐる、その列[illegible]する数字が[illegible]であるとは思へぬ、だが軽じて軽視すべきでない、恐らく敵はその[illegible]力を結集し来つてゐることは疑うべくもない、恐らく敵はその[illegible]する如く、文字にその片鱗をみせてゐるが如く、今年から来年にかけて熾烈なる反抗を試みるであらう

敵は名にし負ふ物持ちの国だ、油断はならぬ、否我々は今こそ起てを 大君に捧げて彼の反撃を迎へねばならぬのだ敵が如何程飛行機を造らうと又何隻の軍艦を繰出さうと皇軍はびくともすまい必ず勝つてくれる、だが近代戦争はそれ丈では決まらぬ、国民の心構へと戦争生活の実践こそ最後を決する重大要素であることを強く銘記せねばならない、負けてはならぬ、今年も是が非でも勝ち抜くのだ、生活ももつと切り下げられる、貯蓄ももつとまだ出来るやれと言はればまだまだ何でも出来る出来なくてもやり抜かねばならぬのだ、皇民奉公会中央本部では昨年十二月八日の大詔奉戴一周年記念日に際し

一、戦場精神の昂揚
一、生産増強の決行
一、戦争生活実践の徹底

の三項を重点として強力活潑なる国民運動の展開を提唱した、今その全項を再び掲げ各自が踏むべき道を明示するが「戦争生活実践の徹底」こそ最も肝要にして最も身近なるものである

第一 趣旨

大詔を奉戴して茲に一周年、大東亜戦争は帝国の赫々たる大勝の裡に其の緒戦の段階より、今や将に重大なる戦局を孕みつつ長期戦の段階へ移行せり。蓋し米英は其の豊富を以て誇る物的資源を挙げて生産の増強に狂奔し、以て最後の勝利を夢みて其の反撃愈々熾烈ならんとす。此の秋に当り我が一億国民は皇国民たるの本領を発揮し時局に相応しき認識に徹し米英撃滅の戦闘精神を益々旺盛ならしめ、以て生産の増強を決行し更に戦争生活の実践を徹底するの要愈々緊切なるものあり、依て本部に於ては政府の施策と呼応し関係団体と連繋して大東亜戦争第一周年を期し、時局下最も喫緊なる一大国民運動を展開し、以て大東亜戦争を完遂し、[illegible]一に[illegible]へ邁らんことを期せんとす

第二 運動の重點

一、戦場精神の昂揚
二、生産増強の決行（戦力の強化）
三、戦争生活実践の徹底（戦争生活の確立）

第三 各運動重點の要旨

一、戦場精神の昂揚 国民精神の昂揚は大東亜戦争完遂の一切の国民活動の基調たるべきものにして之が[illegible]には皇国に生を享けたる感激と矜持の下に純乎日本人たるの国体護持精神を[illegible]し

イ、承詔必謹精神を徹底的に昂揚し、一億国民協力一致献身奉公の誠を致すべき国民の覚悟を一層強固にし

ロ、戦争の原因と現在の段階を明かにし、米英撃滅を完了する迄は絶対に屈服するに非ざることを銘記すべし

ハ、一億国民が挙げて米英撃滅の決意の下に大なる敵愾精神を益々熾烈ならしむると共に、依て政府に於ける民心指導の方策と呼応し、適切なる啓発方策を樹立して強力なる国民運動を展開するものとす

二、生産増強の決行

一、目標 重要物資の完全充足、主要食糧品の島内自給及び[illegible]物資の生産に要する資材の完全生産に関する、政府の施設と呼応して強力なる国民運動を展開し之が徹底並に実現を期するものとす

二、右目標達成の為めには、概ね左記事項に主眼を置き政府其の他関係方面と緊密なる打合せの下に、国民運動として展開すべき適切なる実施方策を樹立して之が実施をなすものとす

イ、計画生産の徹底及び不急生産の抑制
ロ、技術の刷新
1、生産技術の飛躍的向上
2、生産管理に於ける技術の[illegible]
ハ、商店の整理
[illegible]能率向上
ニ、中小商工業の整理統合
ホ、国民皆働
1、勤労報国精神の徹底
2、国家、重要産業への勤労の集中及協力
3、未活用勤労力の活用
ヘ、[illegible]
1、戦時輸送力の綜合的強化
2、[illegible]物資の輸送協力
3、輸送及乗車乗船の調整並[illegible]

三、戦争生活実践の徹底

（一）目標 戦争生活実践の[illegible]の適正化に依る国民生活の安定及生活の明朗化、簡素化、剛健化等戦争生活体制の徹底に対する政府の施策と呼応して、強力なる国民運動を展開し之が[illegible]並に実現を期するものとす

（二）右目標達成の為めには概ね左記事項に主眼を置き政府其の他関係方面と緊密なる打合の下に国民運動として展開すべき適切なる実施方策を樹立して之が実施をなすものとす

イ、国民生活の明朗化、簡素化、剛健化
ロ、適正配給の確保
1、生活必需品の確保
2、[illegible]
3、配給機構及一般消費者の[illegible]
4、[illegible]国民生活に於ける生活必需物資の受給方法の改善
[illegible]
ハ、[illegible]食の普及徹底
ニ、保健厚生
1、国民体力増強
2、妊産婦及乳幼児の保護
ホ、国民貯蓄強化
1、貯蓄の増強
2、公債完全消化
ヘ、民防空の強化

（四）防諜の徹底、軍人援護の強化

物資[illegible]其他[illegible]、各種[illegible]運動[illegible]して[illegible]る諸運動は之を国民運動化して[illegible]するものとする

第四 運動實施上の要綱

一、本運動は政府方針に立脚し諸施策に即応し関係団体と連繋し島民朝より[illegible]自主自発の運動たらしむる如く創意具体的に之を実施すること

二、新聞、雑誌、ラジオ全面的の協力を求むること

三、本会及関係諸団体の各々は率先挙げて陣頭に起ち本運動の推進に努ること

更に進まむ軍事援護

擧島想起"銃後の誓ひ"

第一線の勇士が国に一死を鴻毛の軽きに比し喜び勇んで国に殉ずると云ふことは固より大日本国民の義務であるが国に殉ずる大和魂を持つて居なければ出来ない、然し、

この魂 をば前線の将士に[illegible]せしむる為には銃後の国民も亦一体となつて祖国の至誠を致し銃後の護りを固めてゆかねばならぬのだ、そして今国民々々の駅頭、街頭、埠頭等で"後のことは引受けた"と征く兵士を励ました我々はこの誓ひを堅持して勇士の留守宅を、郷土を護り第一線将士に寸毛の憂ひを抱かしむることなく力一杯の援護をしてもらはねばならない、それには一億の誠で包む軍事援護の強化が肝要である。東條首相もこの軍事援護の強化を強調し

皇軍将兵出征報国の精神に報ゆるに銃後の軍人援護の至誠を以てする、かくしてこそ将兵は[illegible]

眞精神 を[illegible]し米英に止め刺すまでは美しい隣保相扶の精神に依り益々奉公の誠を挙げ出征一家を[illegible]し手近な慰問文の発送は勿論真心こめた慰問品を贈ふばならぬのだ、そして白衣の勇士、第一線の将士にドシ〳〵送り出され遺家族や傷痍軍人に[illegible]する[illegible]は[illegible]かい援護など……戦[illegible]第二年の春を迎へ戦争の現役を身に[illegible]して[illegible]えたつ援護の[illegible]を一段と

[illegible]士気旺盛、世界無比の力を発揮に[illegible]ぎ国民に呼びかけてゐるのだ、国民は[illegible]ちに我々は出征家族、戦歿家族の生活扶助、傷痍軍人に対する職業保護、更に[illegible]勇士に対する[illegible]の感謝等にいよ〳〵力を入れ[illegible]をもつて[illegible]かくこれらの人々を包み国民相互の手に[illegible]心[illegible]を[illegible]めることも[illegible]してはならないのだ、戦争はいまや長期に[illegible]を[illegible]はす 時我々は[illegible]に[illegible]

[illegible]は[illegible]されば[illegible]らぬ、思えば[illegible]くも 皇室におかせられても常々御心を軍事援護に注がせられ数々の御仁慈を垂れさせ給ひ、殊に戦歿将士の英霊に対しては天皇 皇后両陛下の御名を以て祭粢料を下賜せらるるなど 聖慮の[illegible]ほどただただ恐懼感激の外はない さあ！今年こそは例年に増して我我は軍事援護をもりたててゆかねばならぬのだ"後のことは心配無用です、銃後の留守宅は引受けた"とあの日あの駅頭であの街で[illegible]く兵士と交した国民の誓ひをもう一度胸に叩き込んで勇士出征後果して能くその"誓ひ"が実践されてゐるかを反省し

一身を 捨てて国難突破に挺身してゐる勇士に劣らず我等も私心を捨て一身を賭して祖国の赤誠を披瀝し以て戦ふ日本の銃後援護をば貫徹しその終局の目標に[illegible]成に協力しようではないか、一億の誠で包む兵の家――そのままに

三億貯蓄公債消化へ

擧島何が何んでもやり抜け

貯蓄や国債消化の必要なることは誰にもわかる、だがそれを実践することとなるとどうしても上手く行かない、凡そ戦争遂行上巨額の戦費と莫大なる物資を要することは今更言ふを俟たないところである之を支障なく調達する為には其の源泉となる處の

資金の 調達を図ることが必要であつて此の点政府は事変発生以来一大国民運動として国民貯蓄奨励に努めて来たのである。然し貯蓄については今迄は各人の都合に依り之を左右してゐたがこの国家の存亡を賭する大東亜戦争決戦下では貯蓄は戦争生活の必須條件としなければならない、即ち今までは貯蓄は生活の余裕をもつて無駄遣ひせずに貯蓄せよと呼びかけられてゐたものが今では"生活の最低線まで切りつめて余りを全部貯蓄せよ！"と強調されて来たのである、支那事変勃発して昭和十三年は八十億円、十四年は百億円、十五年は百二十億円、大東亜戦争勃発の昭和十六年度は百七十億円、十七年度は更に二百三十億円の貯蓄目標がたてられた、つまりこれ迄貯蓄して居る上に本年一箇年に二百三十億円を貯蓄しなければならないのであつてわが台湾でも三億円を目標にして貯蓄する事になつてゐる、尚戦争が永引くにつれてこれから先、どれだけ沢山のお金が入るか判らない、またアジア十億の人たちがあとあとまでも仕合せにする大東亜共栄圏建設と云ふ大事業も亦莫大なお金と努力とを要するのである、戦後国民は戦争に勝つために、大東亜共栄圏建設のために絶対に[illegible]めねばならないのだ、"さあ示さう一億の底力"、戦争が長引くと物資も減る、戦費は国債によつて賄つてゐる、その

戦費の もとは言ふまでもなく国民の貯蓄である、戦争には沢山の物資が要る、弾丸、飛行機、戦車、軍艦……これを前線に送らなければ兵隊さんは十分に戦へない、だから国民は出来るだけ辛抱して節約第一、戦地の兵隊さんに苦労させない様にそれには二百三十億円の貯蓄が必要なのだわが台湾が受持つ三億円、それは内地の一府県の貯蓄目標にも達しない金額である、だからとて決して生易しい金額では出来ない、島民奉公会の貯蓄奨励本部を始め官庁や各銀行が骨をからして全島民によびかけてゐるのもこれがためである、我々島民は今こそその生活を切詰めねばならない、必勝貯蓄、貯蓄戦に於ても米英を撃破せねばならない、貯蓄は倍加、消費は半減、貯蓄も戦争の一部であるといふ心構へが絶対に必要だ、戦場にゐる心構へでやつて行かなければならない、前線の兵隊さんさへ貯蓄に一生懸命である、泥水をのみながら貯蓄をしてそれが何千

しなければならぬと決心すれば何処の家でも大なり小なり

貯蓄は 出来るのだ。[illegible]貯蓄は心掛けといつて貯金に励き、一枚の反古紙、一本の古釘でも無駄にしないで使へるだけ使ふといふ心がけになればそれ相応の貯蓄は出来るもので塵積つて山となる、島民の一人一人が怠らず貯蓄すれば積り積つて二百三十億円の貯蓄が出来るし物価騰貴の抑制にもなつて国民の生活を安定にする一石二鳥の好結果を見るのである。国民は出来るだけ無駄を節約し出来るだけ貯蓄し貯金し以て貯蓄報国の実を挙げ決戦下国民としての義務を果さなければならない、一方政府は[illegible]建設のために国民に支払はれる巨額のお金は民間の工場とか商店とか労働者の手に這入るのであるしかしこれは[illegible]の金が[illegible]の手に移つた[illegible]である、そこで此[illegible]たまたま[illegible]の金を貰つたからと云つてこれを使ひ果してしまふとその[illegible]は無一文となる、それでは一家の危機に直面する、次に何か必要なものを作りたいと思つても作ることが出来ない結果となるのである政府が支払つた大金が廻つて来たいでいつまでも市場に流通して居

國債に 代へ、貯蓄にして置いて全国民が協力しなければ戦争の戦ひに勝つ事は出来なくなるのである、"進む皇軍、後押す貯蓄"と国民貯蓄の標語ラッパはいよいよ鳴り響く、最後の勝利は銃後の貯蓄だ、国民は[illegible]たければならない、国債を多く持つてゐるほど[illegible]となり自他となるのだ、[illegible]つた国民は[illegible]ずに[illegible]の節約や[illegible]の多くなる様に[illegible]なくてはならぬ、それが銃後国民の忘れてならぬ務めである。今度六百萬島民は生活の必需品以外として[illegible]も三億円貯蓄に参加して行かなければならないのだ、国民貯蓄組合から[illegible]られた貯蓄でもう[illegible]を果したと考へてはならない、[illegible]に、生命保険に一銭貯蓄をもつともつと一銭も三銭も増やさなければ三億円の[illegible]に[illegible]することは出来ない、[illegible]三億[illegible]へ貯[illegible]に来たある[illegible]

[illegible]さんと[illegible]へて貯[illegible]いてみた、私のところなんか五人も子供があつて主人が工場から月に貰つて来るお金がザッと百円、子供が四年生と一年生で之がその頃の定めで十銭づつ、主人の貯金として毎月二十円づつを一昨年の春から始めたんですが、然も今度は国民貯蓄組合も結成され、とても苦しいですよ、今月はもう駄目だと思ふ月が何度あつたか知れませんがみんな貯蓄をなさるのに苦しいからと言つてやめることも出来ないと思つてどうにか続けてゐます、子供の

オヤツ やその他色々と切り詰めてやつてゐます、でも面倒の金額がふえて行くのは楽しみで……、またまとめた貯蓄の外に家の[illegible]出す[illegible]ひに必ず一枚づつ貯ふことにしてゐます、この国債券に[illegible]、貯蓄券の一枚が一等に引きあてて私たちは[illegible]ではないかと吃驚しました、その金を貯蓄にし、また一部は[illegible]を買ふ目[illegible]有效に[illegible]はせていただきました、[illegible]く有難いとことです……つましく語る国内[illegible]さん、私たちはこの国内[illegible]さんをよき模範としていよ〳〵貯蓄に国債消化に今年こそ、一段と努力を払ふべきではないか

違法行爲は我等の敵

明るい銃後建設へ遵法精神昂揚

[illegible]聞と云ふ言葉の時代は過ぎた、それは利敵行為であり国内の敵である……之は取締の第一線にある[illegible]の言葉であるが儲け主義が[illegible]めに闇取引をやり

配給違反を なし悪徳行為を敢てする、斯うした不届者は正しく家の中に[illegible]ふ白蟻も同然でその行為はいつの間にか国家の屋台骨を蝕む国賊となり国家を崩壊に導く国内の米英となる、この明白なる事実に気付かず物資を隠匿売惜しみして利益のみ追ふ行為は西欧の個人主義、アダム・スミスの云つた

商人はどんなに[illegible]の皮を[illegible]つて儲けても構はぬ、目的の為めには手段を選ぶ事なく自由競争で思ふ存分儲ける事が結局は国家社会の為めだ………

この[illegible]こそ何にもない[illegible]の信奉者と云つても過言でなく、他人は踏み倒してでも何うしても自分丈儲かればいいと云ふ

ユダヤ思想 以外の何ものでもない、若し斯んな考が大東亜戦下の日本にあつたとしたら………[illegible]の中に国家[illegible]は何と云ふ哀しい事であらう、今日の戦は国家総力戦であり、国民の一人一人が前線の兵隊[illegible]

さんと同じ気持でこの[illegible]を[illegible]ぬかねばならぬのであつてその[illegible]の一穴から……"の[illegible]通りその結果は大戦が[illegible]になる[illegible]に[illegible]が国で[illegible]に対しては徳川時代に死刑を以て臨み又

燈火管制下 の暗闇に乗じ[illegible]、[illegible]等の所為に及ぶ者には一般民衆の不安を助長し[illegible]の米[illegible]に[illegible]を与ふる者として"戦時[illegible]に関する法律"を定め昨年一月廿一日以来本島にも施行、又ドイツでも死刑又は無期懲役を以て臨んでゐるがもとより自分一個の利益の為め一億一心の歩調を乱す者に対しては[illegible]過ぎる程の措置であつて其行為が国賊である限り、その罪は萬死に値するものである、昨年中[illegible]部による銃後の[illegible]

断乎享樂街を刷新せよ

寒心に堪へぬ享樂街の繁昌振り

と云ふには余りにも軽く足利時代の亜流であり、又ルーズベルト、チャーチルの悪し者と云つても過言ではあるまい

決戦第二年目 の[illegible]は従来の[illegible]を根本から[illegible]して[illegible]し[illegible]人主義、利己主義の[illegible]思想から[illegible]奉公の大理想に目覚めねばならぬ、そして[illegible]

[illegible]と云はれた[illegible]を[illegible]して買つたり、[illegible]を[illegible]化した者に対し[illegible]して[illegible]した[illegible]人や組合[illegible]もあつたがこれは[illegible]

[illegible]字通り国民の

一人一人が 火の玉となつて[illegible]に[illegible]ることであり[illegible]にひとしい[illegible]いスクラムを組んで[illegible]も[illegible]らさぬ[illegible]へをする[illegible]、そこにどうして一つの[illegible]も許されようか、六百萬島民よ！[illegible]精神にとどはありませんか……

「戦ひはまさにこれからなり」と東條首相は[illegible]二十七日議会での獅子吼[illegible]する大東亜戦争[illegible]の米英を[illegible]せんとする[illegible]に陥つて[illegible]、[illegible]が[illegible]大たる[illegible]としてゐる以上

大東亜戦争が [illegible]戦と[illegible]なるのは必然であり[illegible]は益々[illegible]「戦ひは之から」なる[illegible]を[illegible]く[illegible]に[illegible]み込まなければならないのだ、米英[illegible]の[illegible]は[illegible]く[illegible]の大[illegible]を[illegible]した[illegible]の日、[illegible]の[illegible]にわれ〳〵は凡ゆる[illegible]を[illegible]んでも木の[illegible]をかじつてもこの戦ひは勝ち抜かねばならないと[illegible]く心に誓つたのであつた、われわれが[illegible]れる[illegible]は[illegible]が[illegible]れる[illegible]なのだ、米英[illegible]に[illegible]下の[illegible]をむさぼせる[illegible]はどんな[illegible]でもしなくてはならない、生活が苦しくなつて行く[illegible]も[illegible]しやう、勝ち抜くために……へに、[illegible]勝ち抜く為めに[illegible]ンマーを[illegible]ふ[illegible]も、[illegible]も[illegible]は[illegible]も、[illegible]もはじく[illegible]も、ペンとる

サラリーマン も[illegible]すべてが[illegible]一[illegible]で血みどろの[illegible]

[illegible]を[illegible]る[illegible]兵の心を心として[illegible]〳〵の[illegible]力を[illegible]して生活の切替へを[illegible]して戦時生活を[illegible]して行かねばならないのである、だがしかし[illegible]時中[illegible]ばかりしてはならない[illegible]ふので[illegible]は[illegible]ない、[illegible]の中にも明日の戦ひに勝つ[illegible]の[illegible]に活力を与へ[illegible]せ[illegible]を[illegible]ふもよし、[illegible]もよし、[illegible]を[illegible]るのもよいであらう[illegible]それは戦ひに勝つ[illegible]なので[illegible]ある、[illegible]に自由主義時代の[illegible]を[illegible]ふて享楽に[illegible]る[illegible]は[illegible]に[illegible]さない

[illegible]、[illegible]は[illegible]時の[illegible]を[illegible]に反[illegible]した、[illegible]は三分の一以下に[illegible]した、[illegible]は[illegible]に之を[illegible]ってゐる、[illegible]

撞球屋も廃業 するもの[illegible]してゐるが、[illegible]に於ける大[illegible]に引続く皇軍の輝かしい戦果が[illegible]されるにつれて[illegible]も[illegible]ひを[illegible]して来た、[illegible]に入つた昨年一年間の[illegible]を見ると[illegible]と共に[illegible]一年間より[illegible]、[illegible]一[illegible]年を迎へた昭和十七年十二月に至つては前年同月に比べると三倍の[illegible]となつてゐる、われ〳〵はここで大いに[illegible]すべきである、第一線将兵の[illegible]によつて[illegible]ひは[illegible]つて、一[illegible]米英[illegible]力を[illegible]から[illegible]して不[illegible]の[illegible]を[illegible]き上げただが戦ひが終つたのではない、[illegible]ひは正に之からだここで[illegible]に[illegible]つて安[illegible]な気持になる[illegible]は[illegible]に[illegible]めなければならないのだ之からの

戦争の勝敗は [illegible]によつて決せられる国[illegible]は[illegible]よと叫ばれてゐるにも[illegible]らずその[illegible]が[illegible]らない、然るにその反面カフエー、[illegible]は[illegible]に[illegible]るとも劣らぬ[illegible]でであるとあつては何[illegible]に[illegible]があり何[illegible]に[illegible]を[illegible]ち抜く[illegible]さが見られ[illegible]決戦下である、カフエーに行かなければ、[illegible]に行かなければと云ふ時代ではないのである、[illegible]月[illegible]歌舞[illegible]の[illegible]上を示してゐるカフエー[illegible]は[illegible]に少しとしたい、之を半減し、[illegible]を[illegible]に[illegible]り向けたらどうだらう、この[illegible]われは二倍も三倍もしなければならない、[illegible]に[illegible]者[illegible]も[illegible]な自[illegible]を[illegible]する秋ではないか、斯う云ふ[illegible]がある、[illegible]の[illegible]が二年間に[illegible]つて連日の様に

某カフエーに 入浸り一[illegible]を相手に三萬数千円を[illegible]してゐたが、[illegible]の[illegible]金を[illegible]してゐた[illegible]が[illegible]した、一[illegible]が[illegible]を[illegible]したと云ふ[illegible]を見ても[illegible]から見て明かに不正行為があるのではないかと[illegible]し得るにも[illegible]らず[illegible]がただ[illegible]てゐた[illegible]について[illegible]の一半は[illegible]者側にもなければならない、斯かる不心得な[illegible]に対しては[illegible]を下さるべきであらう、[illegible]下の享楽機関は[illegible]く[illegible]を[illegible]し利[illegible]を[illegible]して真に[illegible]に[illegible]ける一休息所として国民に活力を与へる[illegible]を果さねばならないのである、[illegible]が[illegible]を合同して利[illegible]を無[illegible]して国家に協力せんとしてゐる[illegible]は

享樂面に大きな 示唆を与へたものと云へる、斯うして[illegible]後の[illegible]が[illegible]々で国家目[illegible]の[illegible]のために奉仕する[illegible]によつて戦時生活に[illegible]へ[illegible]し[illegible]の日本人としての自覚を[illegible]めて明朗な[illegible]を打ちたててこの[illegible]一[illegible]の大[illegible]を勝ち抜かねばならないのである

脂粉追放へ起て女性群

贅澤は敵だ！今年こそ決戦の年

"贅沢は敵だ"或は"贅沢の中の美"が叫ばれて国民の戦時生活[illegible]が促されたのは支那事変勃発以来のことだ、所謂[illegible]米英型の[illegible]ダン・ボーイ、モダン・ガールと云ふ亡国的存在からジャングルの様なパーマネントは[illegible]の波に押されて一時は姿を消した、然し戦後

ハンド・バツク その他化粧品装身具等の[illegible]が[illegible]された[illegible]も[illegible]いた口が塞がらぬ程[illegible]させるものがあつた、戦時生活を認識しない無知な婦人の行為に[illegible]し強い[illegible]を[illegible]したであらう今や米英も[illegible]に[illegible]起となりだした[illegible]に大東亜戦争第二年を迎へた、我が陸、海、空の精鋭は赫々たる大戦果を挙げたとは云へ[illegible]に必勝の[illegible]を[illegible]へ[illegible]後の勝利へと邁進してゐる[illegible]だ、[illegible]の[illegible]を[illegible]ふと共に我々は第一線将士の[illegible]に[illegible]を[illegible]して[illegible]よう、[illegible]に[illegible]しない生活が[illegible]打つてゐることを[illegible]するであらう、その昔封建時代の[illegible]チヨンマゲを切るのが惜しく明治維新の大御代を過しチヨンマゲと共に[illegible]に[illegible]つた人[illegible]の様に自由主義時代の[illegible]を心得へてゐる人[illegible]が[illegible]る[illegible]、[illegible]

の[illegible]を[illegible]するテカテカ頭でズボンを[illegible]まで吊り上げ[illegible]の[illegible]がとんがつた男[illegible]は[illegible]を[illegible]す[illegible]の[illegible]を[illegible]さん、[illegible]みたと云はぬばかりの[illegible]でチリチリに[illegible]ち上げたパーマネント、白[illegible]の[illegible]な[illegible]化[illegible]と[illegible]いハイヒールでカンガルーの様にチヨコチヨコ歩いてゐる人[illegible]がある、[illegible]てゐる、近頃はパーマネントも自[illegible]さへ[illegible]出来て[illegible]が良くなつたのでないが中年[illegible]人[illegible]は[illegible]の[illegible]さん[illegible]の[illegible]の女のあの[illegible]

ひ上つた

パーマネント は決して美[illegible]が[illegible]したものでなくして[illegible]人の[illegible]であつたらうと[illegible]来る、大[illegible]に[illegible]つて飛んだ[illegible]に[illegible]を[illegible]く男[illegible]が[illegible]人の目[illegible]を[illegible]みたい、[illegible]な[illegible]には如何にも[illegible]生[illegible]の[illegible]は[illegible]さがある、ビルマ攻[illegible]に"どうんと[illegible]"と云ふのがあつた、[illegible]は[illegible]にまみれ[illegible]は[illegible]なの

が一つもないと云ふ[illegible]部[illegible]の[illegible]であつた、こんなにまでして[illegible]士は[illegible]の[illegible]に[illegible]してゐることを我々は自覚しようではないか、その[illegible]心に[illegible]へるのである、若い人[illegible]の[illegible]の[illegible]、[illegible]も生々しい[illegible]、これには[illegible]と工[illegible]の[illegible]もあらうがそこが工夫である、[illegible]一[illegible]から[illegible]つた兵隊の一人が[illegible]に[illegible]つて来て若い[illegible]さん[illegible]とんな[illegible]を[illegible]つた

[illegible]の[illegible]しい[illegible]を[illegible]ると[illegible]分が[illegible]らぐ、然し何となく[illegible]なものがある

この[illegible]に我々は[illegible]すべきものがある、化粧品が良く[illegible]れる、これは女の[illegible]みであり必[illegible]品であらうが大[illegible]な[illegible]の良さを塗りつぶすこともなからう……[illegible]ツの若い[illegible]さん[illegible]は化粧品を[illegible]ふ金を[illegible]に[illegible]し[illegible]たる[illegible]美を[illegible]してゐることは[illegible]に[illegible]たれるものがある、一つで用の足りる化粧品を[illegible]めて化[illegible]のために生きてゐる女性は居ないだらうか

甲斐ある生活 に[illegible]し[illegible]としての生きてゆく女性[illegible]の[illegible]きをこの[illegible]みたい、[illegible]奉公会では[illegible]に[illegible]を[illegible]し[illegible]の[illegible]家と[illegible]つて[illegible]を[illegible]したがこの[illegible]を[illegible]して何人ある

だらうか"贅沢をすれば切りが無い"戦時生活に生きるには我々は自からの生活の周囲にある無駄を[illegible]することだ、一つの物を買ふにも先づ頭を使つて早急に必要と認めた物を買ひ不用な物は買はないことにしたいものだ、金は[illegible]ふものにきまつてゐるが生きた金を使ふことが[illegible]の生[illegible]だ、[illegible]が[illegible]、[illegible]を[illegible]めてゐるのは[illegible]るに[illegible]インフレーションからお互の生活を[illegible]るために[illegible]ならぬ、この[illegible]に[illegible]ひ貯蓄並に国債消化に邁進することは云ふまでもない[illegible]だ、[illegible]に[illegible]々入つて欲しくないもの[illegible]も[illegible]し更にこれを[illegible]して[illegible]る人[illegible]の心理が[illegible]らぬ、物資は大切にすべきだ、またこう[illegible]で[illegible]具[illegible]しがあつた[illegible]な物品が一つ[illegible]らず[illegible]れ切れた[illegible]があつた、[illegible]してこれで良いのだらうか、お互にもう一[illegible]反[illegible]してみたい"今は[illegible]してゐるんだお互ひに[illegible]るのだ"この[illegible]があれば決して[illegible]を[illegible]えた生活は有り得ないのだ、さうして[illegible]を[illegible]下げて行く[illegible]に生活の美がある

護國の華と 散つて行く[illegible]将士の[illegible]を我々は[illegible]に[illegible]べて見よう……戦時生活[illegible]立は[illegible]ではない、我々の双肩にかかつた[illegible]であることを[illegible]に[illegible]に[illegible]く[illegible]はうではないか

長期戦だ！
あなたの心構は出来てゐるか
台湾奉公壮年団

長期戦だ！

今年こそ我等六百萬島民スクラム組んで大東亜戦完遂へ驀進せん！[illegible]も何もかなぐり捨てて

謹賀 貫け！一億鐵石心 皇紀二千六百三年

基隆港 廣島館 電話八二二番
基隆驛前 永三旅館
基隆合同運送株式會社 専務取締役 本庄運造
基隆市義重町 電話二二七三 [illegible] 松永辰之助
基隆市義重町 電話二八八番 [illegible] 藤井品太
基隆市義重町 [illegible] 岸田菊見
基隆市旭町 [illegible] 達朝明
基隆市義重町 吾妻旅館 上原かね
江頭[illegible] 江英 基隆市義重町二丁目
基隆市双葉町 協發木材株式會社 電話三六六番
基隆市義重町 新原書店 電話五五〇番
基隆飲食物販賣業組合 代表者 劉永泉
大東火災 [illegible]火災 保険代理店 [illegible] 本竹造
[illegible] 基隆支店 飛田商店 飛田稔 基隆市元町
[illegible] 金裕徳小賣部 基隆市 電話八八九番
昭和質舗公司 代表者 黄慶灶 基隆市義重町三六番地
日産ミシン商會 グライダーミシン株式會社代理店 蔡來發 基隆市旭町
第一寫場 基隆市[illegible]
入船旅館 基隆市入船町三丁目五番地 電話九〇四番
保證責任 基隆住宅信用購買利用組合
基隆市福徳町一ノ六〇 基隆漬物商組合 組合員一同
基隆市 高砂劇場
[illegible] 紺家孫次 基隆市義重町四ノ一六
基隆 醫師 福永金太
[illegible] 基隆書店 [illegible]

基隆市 醫師 大島盛
内科小兒科 英徳醫院 基隆市福徳町一ノ十三 電話八四
基隆市旭町三丁目十四番地 石炭業 陳天[illegible] 電話九四
[illegible] 是枝正
近江[illegible] 代表社員 近江時五郎
基隆[illegible]株式會社 取締役社長 和泉種次
[illegible]株式會社 代表取締役社長 顔欽[illegible]
[illegible]株式會社 金瓜石鑛山 事務所長 戸田[illegible]
臺灣水産販賣株式會社 専務取締役 廣田幸[illegible]
米穀商 玉理[illegible]
基隆水産株式會社 専務取締役 共田正[illegible]
東部水産株式會社 取締役 開本[illegible]
臺灣船渠株式會社 代表取締役 安松勝[illegible]
日本郵船株式會社 基隆出張所長 中村[illegible]
[illegible] 吉原多[illegible]
基隆炭礦株式會社 代表取締役 宮崎[illegible]
大阪商船株式會社 基隆出張所 植木楠[illegible]
臺灣電化株式會社 代表取締役 水野敏[illegible]
日本通運株式會社 基隆支店長 居川榮[illegible]
日本水産株式會社 取締役 前根壽[illegible]
臺灣肥料株式會社 代表取締役 島田佐[illegible]
株式會社臺灣銀行 基隆支店 支配人 土[illegible]忠
振山炭礦 劉[illegible]
瑞芳礦業合資會社 代表社員 沖亮
[illegible] 黒木長[illegible]
[illegible] 大田榮[illegible]
建築請負業 志村[illegible]
フマキラー販賣 石田光
[illegible]株式會社 代表取締役 田尻信
[illegible]商行 武原瑞
[illegible]小間物商 黒澤權
萬榮商店 明石萬
雜貨商 阮達
[illegible]株式會社 代表取締役社長 顔德
[illegible]株式會社 宇田[illegible]
[illegible]株式會社 代表取締役社長 佐井生
食料品雜貨商 謝玉
煙草商 林添
合資會社東元商行 代表社員 金山健

臺北市本町一丁目六十二番地 臺北州醫藥品衛生材料共販組合 電話八七六三
臺北市若竹町二ノ二〇 臺灣味噌工業組合 理事長 大田安 電話九四五七 五三八三
土地、建物、電話賣買並ニ金融 臺北市建成町二ノ九 正和 柳川正 電話武参武五
臺北市大宮町二ノ五七 臺灣華僑總公會 電話三六八六
臺北市日新町二ノ三〇二 臺北華僑公會 電話七七二八
臺北市馬場町 中和興業株式會社 電話九二〇二
臺北市宮前町 臺灣オフセット印刷株式會社 電話五二〇四 五四〇三

[illegible] 日進商會
[illegible] 松井商行
[illegible] 菊元商行
臺北市大和町二丁目七番地 三榮株式會社臺北支店
伊藤萬商店臺北支店
[illegible]商店臺北支店
臺北市京町 又一株式會社臺北支店
田村駒商店臺北支店
市田商店臺北出張所
瀧兵商店臺北支店
須田商店臺北支店
山口商店臺北支店
西川甚五郎商店臺北出張所
渡邊商事株式會社
合同織物商事[illegible]
臺北織物[illegible]
奥野常夫

家庭

納豆の榮養價

大豆に納豆菌と呼ぶ微生物を醗かせて醗酵させたものが納豆であるが、納豆は大豆の成分と同じ樣に蛋白質や脂肪分に富み、且つこれ等の成分は醗酵の爲に一分が分解されて獨特の香味をもつやうになる。また蛋白質や含水炭素脂肪などを消化する酵素が多量に含まれてゐるから納豆は消化を助ける效果も多大である。また更にビタミンが含まれてゐる。これは原料大豆に比較すると製造中に幾分失はれてゐるが、それでもなほ相當に殘つてゐる。納豆はかやうに榮養成分に富んだ食品であるが、これが蛋白質の代用品になるといふことはちよつと考へられない、それは蛋白質、脂肪、ビタミンなど含有されてゐるものは殆ど同じであるが、何れも性質が異つてゐるからである。强ひて類似の點をといへば榮養が略同じなことである。納豆の成分を分析すると次の如くなる。即ち蛋白質一九％、脂肪八％、含水炭素六％、灰分二％、それから一〇〇グラムの熱量が一七五カロリーである

婦人は時局を再認識せよ

大東亞戰一周年を迎へて

大本營陸軍報道部　秋山邦雄中佐談

[illegible]の時局は[illegible]の決戰である。二千六百三年の新春を迎へて一億國民は[illegible]と言はず十二月八日あの生々しい大きな感激に身も心も一度ひきしまる感じを新にする。目下行はれつゝあるソロモン海戰に於いては今後常に至大な危機に敵も味方も直面しつゝあることを婦人は知つて欲しいと言ふのはソロモン諸島は地圖で見る如く南太平洋の無數の島々の中にあつて濠洲とジャバその他日本軍によつて占領せられた島々を遮斷する重要な島で敵はここを是が非でも奪取せんとするものであり、且つまたこれを失へば濠洲は恐く太平洋上の孤島になるので是非ともここより日本軍を撤退させねば止まぬ決心をもつて敗れても敗れても新しい軍隊を輸送して抗戰して居るのであるが我が軍もここへの輸送には非常な苦心を拂つてゐる、戰ひは我が軍の精兵も敵に一擧大破といふ報道を受けてゐる艦艇も死物狂ひになつてきてゐる、ここの戰局に上陸して戰爭してゐる兵隊は誠に言語に絶する苦勞をしてゐる、船が沈められるから彈がない、食物もない、それで前線からは彈を送つてくれと頻りに言つてよこす、日本の兵隊は食べる物は草の根でも食べて生きてゐるから彈がほしいほしいと言つてゐるのである。これをきいて婦人は何と思はれるか銃後に野菜がすくない、肉がない等と言つてゐる時ではない、兵隊さんは草の根をかぢつても十日や二十日は大丈夫戰鬪をするから食物より彈を送つてくれと絶叫してゐるのだ。彈や食物を送るべく航行する船舶は敵の潛水艦に狙はれる、どんな危險を犯してもこのソロモン諸島には彈や食料はどしどし運ばねばならぬのである日本でも是が非でもここを奪取して基地を作らねばならないのである故にソロモン海戰は食ふか食はれるかの一大決戰であるとかく日本本土は戰線遙かに隔たつてゐる爲に大戰爭を直接身に感じない樣に思はれる點が少くない銃後は直ちに第一線につながる事に深く考へを致さねばならぬ、これからは何をさしおいても船をつくる、飛行機をつくる、兵隊さんの食物を送るといふ戰爭遂行の上に必要なものを第一にしなければならぬのであるから銃後の經濟生活は益々窮化されるし來年、明後年も今より以上の苦しい生活にたへる事を覺悟してほしい、この時に當つて、もし銃後から悲鳴があがつては戰爭は負けになる。こんなに苦しいんだから戰爭はお互ひによした方がよいとどちらか一方でも悲鳴をあげたらその國は負けるのだといふ事を覺悟してほしい

第一次歐洲大戰の時に何故獨逸は敗れたか

第一次歐洲大戰の時獨逸は自國領土內には一歩も敵兵を入れなかつた、それだのに戰爭に敗けて惨な目にあつたのは何故か、それは銃後の國民生活が崩れたからである、日常生活が極度に窮乏してしまつたので先づ婦人が悲鳴をあげた、當時米國の大統領は獨逸國民に對して「何故獨逸は戰ふのだお互ひにもう戰爭はやめやうではないか、今やめれば何等賠償金もとらぬし、その他獨逸に不利な條件等持ち出さずに講和する」と言ふ宣傳ビラを戰線にバラ撒いた、獨逸人の中にも「こんなに苦しいんだから戰爭をやめたら」といふ意見がおいおい擡頭してき初めた、英米はここを機會に盛に飛行機で宣傳のビラをもつて銃後のかき亂しに力めたのである、惡い事にはロシヤは獨逸の捕虜を獨逸に返す時に赤い思想を吹きこんで返したのでこれが國內に赤の宣傳をする、次に第一線の兵隊に宣傳ビラで「戰爭をやめよ云々」と宣傳した、こんな事で國民全體が戰爭に疲れ、戰爭に嫌惡を感じたのが敗戰の大きな原因となつたのである、以上の例の示すごとく、銃後が如何に第一線に直接ひびくかを考へて一層自戒自粛して生活戰陣を死守する必要がある、第一日本が敗れる樣な事があれば上御一人に對し申譯ない許りでなく光輝ある我等の先祖に對しても誠に申譯ないのである、日常生活についても少し不平がましいことを云つたり闇取引等をして經濟生活を亂す女性が一人でもあるとすればそれはとりも直さず第一線を亂し國家を亂すものであるといふ强い自覺の下に最少限度の生活にあまんじなければならない、物が乏しいと言つても未だ日本は統制もゆるやかである、しかし、これは國民の自覺により軍で必要なものは銃後では消費しないといふ氣持で行つてほしいと思ふ、婦人は本當に今日の時局を認識して緊張に切りつめた生活をしてほしいと思ふ

英國では婦人も兵隊、高射砲は婦人の手で

英國では婦人の家庭生活は世界の寄與を浴びてゐると言つても過言ではない、日本の婦人は內助の功に於いて世界何れの婦人も及ばないものがあるとして何ら恥づる所なきものを感じさせられる、しかし家庭的に見て立派だといふのは必ずしも國家的社會的に完全だとは言へないので日本の婦人は家庭をしつかりすると同時に社會的にも進出を望ましいものと思ふ、言ふ迄もなく銃を持つて敵と戰ふ事は男子がやり可能い、軍人さうづらはしたくないといふのは日本の男子たる者誰しも同じ考へだと思ふが、英米諸國今日の戰爭では何れも女性が一個の軍人として戰線に活躍してゐる、高射砲等は兵隊を節約すると言ふ意味で大抵の國で婦人の手によつてなされてゐる、それで婦人は常に軍事訓練をうけてゐるし勿論婦人の訓練をうけてゐない、日本の國だけがまだ[illegible]と思ふ臺所をあづかる婦人はなるべく手に入る食物を節約して食べものは工夫をして欲しいものである、さうして家庭の消費を節約して更にもう一歩前進して銃後で出來る事はなるべく男子にさせない樣にして男子は一人殘らず軍務の爲に力を盡すといふ事になれば一層生産の實があがるのではないかと思ふ、第一次大戰の時英國では婦人達が自ら進んで職工になり、砲彈の彈子を作つた、英國民は非常に粘り强い國民で今日あれ程英國が頑張つてゐるのも何處迄も最後の勝利は我にありといふ信念をもつて戰つてゐるので戰爭も窮乏してきてゐるが、まだまだ戰爭力が强い、この點を確りと自覺して銃後も本當になつて戰爭に生産力を向上させる必要がある、生産力增强の爲にも婦人は一般の時局認識を强化してもつて國家に奉公の誠を致されたいものと思ふ

南國の結婚風俗

（坂本益雄）

【一】

「あら、ちよつと出てごらんなさい、花嫁さんよ」あちこちの椰子の葉蔭から、バナナの葉を搖がして走つてきた老若男女、熱心にみとれてゐる。清々しい南國の朝、朝とはいへ流石に暑い、常綠の木々を渡る風は醉ふ、部落の花嫁である村人の批判とりどり、流石に面映ゆい光景である。內地も南方も、こんなところは人情に變りはない

女は頭髮に椰子油を思いきりつけて黑光のする髮は後方下部に集められ、丸髷に結ばれてゐる、ジャワ人は、これをコンデと呼ぶ、コンデの少しく大きなのは粹であるらしい、黑い網をかぶせてゐる御洒落者もある、コンデには香氣などの香花をたばさんでゐたりする、白粉をつけてゐる――白粉といふても化粧法を心得てゐる譯ではない、それも顏だけにつけるので、濃色の首に顏がクッキリと浮び上つて若さには少しく氣の毒にも見えるが口にも紅を濃くきかせ、染料の香もゆかしい、新郎のサロンを纏ひ、[illegible]、手には洋傘を輕く持つ、男は新らしいサロンにカイン・カパラ（頭布）カイン・カパラはその卷き方で粹不粹、本式、略式などが分れるのである、上衣は純白の詰襟が多い、數人の男女が附添ひ花嫁を先にして、數人の男女が隨行する、しつとり朝露に濡れた細道を分けて新郎新婦の一行は進む、回々教寺院に行つて結婚の祭式をするのである

【二】

東印度の結婚の成立は隨分と風習が異つてゐる、ジャワでは結婚が親たちが合議の上定めることもある、一般に早婚で女は平均十六、七歲、男子は二十歲前後と思はれるが、はつきりとは分らない、既婚（多くは許婚）は年齡を知らないのであるから時によつて明確な判斷が出來ない、男が好きな女に戀して結婚したとする、年齡は分らないが大抵美しいのでほんとに結婚するが實は女の方が七、八年も年上のことがある、若い中はよいが三十歲位になると女の方は頭髮が半白になつたりする、こんな筈ではなかつたと後悔の要を痛感して、若いのに妾たりする、時としては十二、三歲とおぼしく、見るも哀の稚な妻、幼少な花嫁が、何の自覺もなく結婚の營みをして花嫁に待してゐる、回教の習慣法によるとジャワでは多分十五歲以上を適齡としてゐるのであるが、實際は雙方の協議によつて結婚させられるのである、こんないとけない花嫁は式は擧げてみたが一ケ年位は許嫁同樣の生活をせねばならないが、さうゆかないのは花嫁さんで、それがために折角の良緣が破談になつたりする

婚約が成立してから許嫁時代があるなどは中々ハイカラで南には歐けぬ、許嫁時代に同棲することがあるが、多くは婚資のないものが採る態度であつて、ジャワではこれを姦淫する風習が濃厚である、といふのは、これがために諸々の禍が起るといふ信仰からで、村落は速かに結婚する態度に出るを常とする、四、五月の頃は稻の收穫期であると共に結婚期でもある、結婚前には村長と村醫師との證明書を貰ふのであるが、手續料として各五十仙位を納めねばならぬ、かくして雙方の親戚緣者に送られて嬉々として回教寺院に行進するのである、寺院に奉納する金は二ギルダー五十仙程度で、その他饅子饅頭を二圓づつ結びつけたものを二個位持つて行く、ここで二人は晴れて夫婦の契を結ぶのである

【三】

兩方結婚族は一族に米天晴で世を喜しんで踊りたい人間であり、貧乏などは我も好むところであるから結婚祝宴を盛大にやることは世間に對して氣が高いといふ譯で吾の能力以上の大金を轉して敢て顧みない、高位高官の者の披露宴は中々盛大なもので、夜通し[illegible]娘子の宣言でアーチを立てバナナの葉などで色々に細工して裝飾を施す、主賓のみはカンテラを用ひ、見物の衆は通りに集つた群衆で一杯になる、恐らく南國の空はカンテラの火でほのあかく粧られ、いつやの長谷川路可さんの繪に彷彿せしめる、コンクリートの床には蓆が敷きつめられ左方には南國のオーケストラである打樂器の一團ガマランが待機し臨列される、選ばれた地方切つての美人の踊り子が盛裝でシャナリ、シャナリと出現すれば拍手はどよめく、八時頃から三々伍々來客がある、大切な客が來た時には門番が「ギロウ」と大聲で呼ぶ、突如號令ではあるが力强い明るいガマランの音が響いてくる、「ギロウ」といふのはガマランで奏する歡迎の音樂である、曲目演奏中でも來客の際には一時中止してギロウを奏する、その間客はレブレブと椅子につくといふ寸法である

【四】

新郎新婦はホール中央の奧に位置し、客は兩側に居流れる、前奏曲として踊子が得意の曲目一、二、三、南國の哀調は彼女達の咽喉から流れ、太鼓は朗々として鳴り、踊子は悠々として踊る、終れば客の一人が代表として長々と祝辭を述べウイスキーを乾杯する、新郎新婦は立つて目禮する、突如ガマランも歡樂を奏する、この時踊子は下手に現はれ、片手に盆を捧げこの中には絹の長いショール（肩掛）が入れてある、片手で踊つてきた踊子は踊る間に客の脚下に跪くと、今迄スコールの樣に鳴りひびいたガマランは急に中止する、踊子は節をつけて歌ひながらジャワ語で「旦那樣はどの曲をやりますか」と歌ふ、スレンダンを取り上げた客は祝儀何ギルダーかを盆に入れ、曲目（例へばパンコール）を註文する、祝儀を受け入れた踊り子は大聲でパンコールと樂手に呼びかける、やさしく、むせぶ樣なパンコールの音は四邊を壓して響きもやらない、ヤオラ立上つた客は心得顏にスレンダンを首から踊り手に言へ、踊子の聲に踊りを併び、太鼓に合せ上手から踊出せば[illegible]舞つてくる、思はず大衆から喝采の聲が上る、このとき主客者である家長が一禮し下手から客に向つて踊つてくる、右に左に、すれちがふにも目から法に叶ふ、踊り子は常に客に添はねばならぬ、曲目の切れ目を見はからつて家長は來客の前に小走りに寄つて盃を獻ずると接待係は酒を注ぐ、二人は鄭重な祝辭を述べて乾杯すると家長は下手に下つて更に踊つてくる、今度は踊り子は客の前に待してくる、曲が終らんとして家長は客に寄りながら二人の美女を廊下で客の方に押してやる、歡呼の中に客と女の肩は[illegible]ほほえみながら退席する、美女を獻上するといふのである、流石は南國式で夜の明けるのを知らないかの如くである

【五】

漸く終つて家長が席につくと次には他の來客が立つて同じく踊る、こんなことが二三人つづいた頃、客はスレンダンを踊り子に返還する、今度は二番目の客がスレンダンを取ることになる、かうして實は[illegible]、御馳走が出される、十二時頃料理が出終つた後に客達は再び『ギロウ』に送られていくのが普通である、ジャワの上流者は皆々外國人が招待された場合では吾々外國人は招待されたときはどうすればよいのか？スレンダンが廻つてきたときは踊つてやるがよい、上手下手は問題ではない、手足を動かすだけでよいから、どうしても出來なければ祝儀だけ出して踊りは代理をしてもらつてもよいが、日本人や歐人が一肌ぬいで踊るといふことは彼等の光榮とする處で、偉大なる國民の一人が彼等に共鳴し、親しんでやることは一層なごやかな氣分を醸成し、その後の色々な交渉もスムースに運ぶ[illegible]ばかりでなく、この邊一圓の住民間に名聲を博するに至るのである

御存知ですか　蒲團の科學

暖い夜の安眠を與へてくれる蒲團の暖かさは、綿が出してくれるものと考へるのは早計で、蒲團のあたたかさは、我々の體溫を逃さない樣に蒲團が保溫してくれるのであつて結局は我々の體が暖めるのである

そこで暖かさの問題は蒲團の保溫性といふことになるが、蒲團の保溫性は綿といふよりも、その蒲團の中に入つてゐる空氣のためであることを見逃してはならない、何故なら、空氣は他の物質よりも熱を導かない性質をもつてゐるので、これが動かないでじつとしてゐると、よく我々の體溫をまもつてくれるので、體溫の發散から失熱にあたたかさを感ずるのである

以上の理由からあたたかく安眠を得るためには蒲團はなるべくふかふかと空氣を含ませることが必要である、それには汚れがあつたり濕氣があつたり、押しつぶされて煎餅ぶとんになつたりしてゐると、それだけ空氣の占る空間が少くなるから、出來るだけ汚れないもの、濕氣のないもの、その上ふかふかさせるために時々太陽にかざすことが大切である

ふとんを日光にあてる事は保溫の問題だけでなしに、蒲團のうけた汗や[illegible]、有效な生理作用があると醫學的にも唱へられてゐる、日常使用してゐる蒲團でも案外水分を持つてゐるもので大柱蒲團を押入からとり出して三時間ばかり干したら三百瓦の水分[illegible]何れにしても水分を去り、乾いた空氣を綿の中にふかく入れることは衛生上からも、保溫の上からも頗る有利なことであるから、晴天の日を選んでつとめて太陽にかざすことをお奬めする、但し午後三時以後は濕氣がダンダン降りるから、その前に取り入れる樣にせねばならない

切抜帳

『汚れ』のとり方

（油）―揮發油に汚點を浸して[illegible]吸取紙あるひは手拭ひを折疊んだものの上に汚點部を乘せ、眞綿か刷毛に揮發油を附けて上より押し乾して擦る、これを二、三回繰返せば、油は揮發油に溶けて吸取紙と手拭ひとに吸取られる、揮發油の[illegible]にて擦し又は小火の上に乾せば消失する

（汗）―汗で汚れた場合には直ちに水に洗ふか、稀薄のアンモニア水で洗へば容易に除けるが、時日を經過し黃色を生じたものはこれを除去すること困難で、この場合はまづ布帛に揮發油をつけ、脂肪分を拭き去り、水にて洗ひ[illegible]、目的を達せざる場合は稀薄のアンモニア水または醋酸を[illegible]毛で擦り、下敷の布を取りかへつつ[illegible]水をつけ、木綿切にて押へ水分をとり去り、特に酸類の殘らぬやう注意し絞りに霧吹をしておく

（酒）―酒類も同樣だが新しいものは水洗にて落ちるが、時日經過のものは小[illegible]毛で硼砂とアンモニアの混液を含ませて洗ふ、何れの場合も下敷の布は度々取りかへる、あるひは汚染部を濕し、下から蒸氣で濕めながら[illegible]水またはアンモニア水にて洗ふ

（ペンキ）―コールタール、[illegible]でも同じであるが、乾かないものは揮發油を脫脂綿につけ端から內部に向けて拭き取り地中に喰込んだものは揮發油をつけて脫脂綿で擦かすやうに下敷の布に吸取らす、乾いたものは小刀で擦き落し、[illegible]をあてて[illegible]と前と同一の方法を用ひる、尤もペンキの場合はテレビン油を使つてもよい

（墨）―生地を傷じないやうに[illegible]、[illegible]、吸取紙を當て[illegible]、この方法を繰返せばよろしい

食糧增産へ精進努力

外米依存を揚棄せよ

吉植庄亮

增産逆效果を完全克服

長期戰を戰ひぬく上から食糧增産確保は不可缺の前提となるところで昭和十八年はあらゆる點から見て何ひとつとして食糧增産への死身になつての精進努力が要求せられる、第一に昭和十八年は過去にも增した自給肥料增産が行はれねばならないこれは豐作で地力をうんと喰つてゐることでも知るし、これがないと十八年の米增産は不可能なる事を常識が敎へる、第二に勞力は前年に比べて尚不足を來さねばならない、農村の勞働がすべて勞力給源としての[illegible]

農村に手を 出してゐる農家がこの事をはつきり告げる、こう言つて來ると實際には增産の逆條件ばかりが有つて增産條件は無い、ところで昭和十八年は米國が月産五千臺の飛行機、年産八百萬噸の船舶建造を宣言してゐる千九百四十四年の大反攻の前年である、今のゲリラ戰術下にあつてさへ、南方よりの米輸入は出來るだけ避けるべき、[illegible]が食ふ結果が生れてはならない、外米依存主義は棄てせらるべきである、ましてや米國の大反攻を豫想しつつある時に於てをやである、ここで私が始めに述べた昭和十八年の食糧增産の重大性は緊要なるものがあるといふ意味がはつきりして來た、今迄は食糧增産目標がいろいろな支障から達成せられなかつたとしても、すぐに外米に逃げ込むことが出來たから食糧增産の問題は大事ではあつたが

その性格は 相對的であつた、昭和十四年政府が米六千七百萬石の增産計畫を樹てて昭和十七年迄の四年、增産目標の平均は七千萬石であつたがその實收平均は六千二百四十萬石で年々八百萬石合計三千二百萬石の減作となつてゐる、そしてこの減作は多くを外米に少部分を外地に依存して凌ぎをつけて來てゐるが今迄の食糧增産の重大性を相對的と前に述べたのはこの事實を指す、然し昭和十八年の食糧增産の重大性は全然今迄とはその性格を異にし絶對的のものとなつて吾々の面前に現はれ來つたのである、なほ一歩深く前進せしめる時昭和十八年度食糧增産の絶對性は愈々きびしくなる、以下この點について書く、今後の戰爭は生産戰が其主體をなす事は明、その生産戰の一つの大きな陣地を食糧生産が受持つ、此處に食糧增産の絶對性は明瞭にせられるだがその絶對性は單にそれ丈に止まらない、其一この

戰線に異情 を來すとなると外米依存を揚棄する昭和十八年は直ちに他のあらゆる生産部門に影響し戰線戰士の能率減退を招來し長期に我國は生産戰に脫落する事になる、食糧增産は石に嚙りついてもなし遂げねばならないのである、では其對策を如何するか私は二つあると思ふ、一つは生産面に、一つは消費面に、生産面に見ると一切が米增産の逆條件のみの存在が、施策の結果齎せられたが、その大きな逆條件の一つを政治のやり方一つで、私は與件條件に轉化する事が出來ると信ずる、それは外でもない勞力の點に於てである、數の點に於て劣つてゐる勞力に、政治のやり方一つで、力と熱とを與へて、三割も五割も餘計の力を出して貰ふことは出來る事である、日本の兵隊は數に於ては一であつても、米、英

蔣介石らの 兵五十にも百にも當る强さは、そのよい證據である、ではその政治のやり方とは？一方に增産の大きな逆條件の再檢討をし、一方に政府を中心とした愛國的國民道義の大運動を展開し國民を心から食糧增産にふるひ立たしむるにある、また米英への認識、何たる地位に日本はあるか、この戰爭に負けたら日本はどうなるか、第一次大戰で負けた獨逸はどうなつたか、今負けてゐる蔣介石の支那はどうなつてゐるか、食糧增産が出來なければ日本はどうなるか、日本國民の陛下にお誓ひする道はと言つたテーマを盛り込んだ一大映畫を作つて眼と耳とから直に國民に訴へる、數は一でもその一は直に一・五にも二にも響く、そしてこれは政治で出來る、又實際は自給肥料の增産ともなりもう一つの增産逆條件を同時に克服する、消費面では私は配給に玄米食勵行を政府にお願ひする

お天道さま の罰が一番[illegible]如何に國民がふるひ立つても[illegible]ると五百萬石八百萬石はすぐ減産になるだから豫めその事を覺悟して昭和十八年がその凶作の年廻りになつても大丈夫なやうに玄米食勵行によつて二千萬石の節米をして置くのである、玄米食勵行に依り內地だけで二千萬石の節米が出來ること、玄米食は保健上も申分ない事はもう公知の事實だから一切を省き玄米食即時勵行は日本の戰時食糧政策を泰山の安きにおくものである、この言葉を以てこの文章を結ぶ

有事即應の

長期戰と經濟決戰

"戰力"高度造出"が緊要

米英の宣傳をたたきつぶし、道遙にまとゞく世界新秩序を建設する實戰は長きいばらの道である、いはゆる長期戰である、しかし、この長期戰は細く長くつづき、終極に戰ひのやむ……決戰が來るといふやうな戰ひではない、ある間隔をおきある[illegible]長期戰である、ある決戰の連續する長期戰である

決戰の大戰果により不敗の戰略態勢をかちえた日本はすでに大きなやまに直面してゐる南太平洋深く

絶海の孤島 ガダルカナルを中心とするソロモン海域において戰はれつつある一大決戰がそれである、[illegible]れながらも敵米國は血みどろ必死の決戰をもつて決戰をいどんで來たのである、かれの呼號した一九四四年の總反攻はすでに開始せられたのである、この一、二年をもつて勝敗を決せんものと[illegible]く全力を注ぎ込んで來たといふのがソロモン決戰によつてうかがはれる敵の姿である、決戰は大きな消耗をともなふ、われらはソロモンの戰ひによつて現代戰がいかに大きな消耗戰であるかをあらためてはつきり知るのである、したがつて決戰の連續を勝ちぬくためにはこの消耗を補給しさらに敵を壓倒する戰力を增强することが絶對に必要である、武力決戰は同時に經濟決戰である、敵米國はこの經濟決戰にたよつて戰ひを有利に導きあはよくば日本經濟をはかろうとしてゐる、飛行機月産五千台、船舶月産三百萬トンなどと宣傳してゐるのを見てもかれが經濟決戰をいかに重しとしてゐるかがわかるのである、われらはかかる數字におどろくものではない、しかし同時に敵の經濟力をかるく見つてはならぬ、かくいふあひだにも敵は飛行機を、艦船を武器をどしどし前線に補給してゐる、神鷲荒鷲のもと一擧をかろしとして前線に戰つてゐる忠勇なる皇軍將兵は、一機でもおほくの飛行機が、一艘でもおほくの軍艦が、一發でもおほくの彈丸が銃後から送られて來るのを待つてゐるのである

緒戰の戰果 に醉つてはならぬ……よくわかつた、戰はいよいよ長期戰だ……それもよくわかつた、しかし長期戰だ、ぼつぼつやらうではいけない、長期戰は決戰の連續であり、しかも當面の一大決戰に勝つことはつづく決戰に勝つことであり最後の勝利を得ることである、銃後のうけもつ經濟戰にもこの決戰で勝ちぬかねばならぬ、五年後の一萬臺よりもあすのけふの五百臺、一千臺の飛行機を必要とするのである、いはゆる長期計畫の戰力增强ではなく今日ただいまに對する戰力の高度造出でなくてはならぬ、私があへて經濟決戰といふのはこの意味である、したがつて今日の戰力增强のためには舊來の個人主義をとり、いまある資材、勞力、施設の效率を十割、十二割に發揮しなければならぬ、かうしたことは從來とても叫ばれて來た事であるがいまこそ重大なる決戰の戰局に直面して凡ゆる耐乏を忍んで斷行するときが來たのである、もしそれわが經濟力の戰ひの集中による銃後への要求などといふ戰をいまだに[illegible]ものがありとすればこれは怠慢もはなはだしいものである、銃後どころかわれらは、五年さき、三年さきのことをあへてかへりみず今日の戰力增强の一點に全力を集中すべき一擧千金の重大なる時局に立つてゐるのである、銃後といふものがありとすれば共に戰ひに勝つものにのみ存在するのである

經濟決戰に 勝ちぬくためには國民がすべて戰鬪の精神に徹底しなければならぬ、官も民も、經營者も勞務者も、消費者も、胸間にある心をもてばなしてなし得ないことはない、勝てる國の[illegible]には戰火は、遠く本土をはなれてゐる、しかしそれだけ國民は戰爭を身近に感ずることなく、とかく心にゆるみを生ずるすきをあたへられてゐるのである、戰鬪がいかに進んでゐるか、そしてたつたいま突つて死んだ勇士もあり、現地萬里の海洋に、大陸に生命をなげ出して戰つてゐる將兵のあることをおもへばつねに戰鬪の精神がよみがへるのである、大東亞戰第二年目を迎へる新年にあたりわれら銃後國民は戰鬪と銃後のつながりをふかく考へ、經濟決戰への覺悟を新たにしたい（[illegible]　太田正平氏）

經濟戰士に戰友道

斯くて經濟決戰完勝へ

「第一年目も勝ち拔くぞ」の標語と共に決戰第二年を迎へるに至つた「ハワイ」の攻撃から西南太平洋の戰火に涉る決戰に至る迄第一年は赫々たる

勝利 と戰果の中に終始したのであつたが決戰第二への突入と共に戰は漸く長期化し且消耗戰の形態を採るに至つたことは大方の熟知せらるるところである、而して斯くの如く戰が消耗戰の形態を採り長期化したる狀態に於ては[illegible]に於ける場合と異り經濟戰の戰爭に於て占むる地位は極めてその重要さを增加し來るのである、卽ち「近代戰は總力戰」であり、經濟戰が戰爭の一要素として重要な意義を有することは今更論ふを俟たないところであるけれども、消耗戰の段階に於ては物資的經濟力の增强補給が戰爭の勝敗を決する要素中に於て占むる地位の重要さは極めて重大なるものがあるのであつて

戰鬪 力の補給供給源が最後の勝利を決定すると謂ふも過言でないのである、而して今や大東亞戰爭は此の段階に突入したのであつて從つて經濟戰の勝敗は今後の戰鬪の動向の上に著しき影響を持つに至つたのである、決戰第二年の我等の使命は一にも二にも此の經濟戰に勝ち拔くこと以外に存しないのである、經濟戰と謂はれ、且つそれが總力戰の一要素として戰はれつつある以上、而してそれが戰爭を勝利に導く限り國民經濟の運營それ自體も亦戰鬪態形に於てなされなければならないことは謂ふを俟たないところである、而して戰鬪態形とは一定の目的に對する總力集中の態形であり、且つ一定の

作戰 計畫に基き一本の指揮の下に全體が統制的に行動し得る態形でなければならない、此の意味に於て從來の自由經濟の組織、機能は[illegible]と謂ふべきであると思ふ、多數の力を一定の目的に向つて動員結集せんとする場合に及べば何よりも先づ多數の力を一つの組織體に組織することを必要とする、從つて個別的資本を中心とした自由主義經濟の體制に於ては總力の集中は謂ふべくして行ひ得ざる空論である、之卽ち戰爭經濟に於て國家の組織が必須の要件として取上げらるる所以であり、又戰爭經濟が組織の經濟なりと謂はるる所以も茲に存するのである、支那事變勃發以來六年にして我が國經濟は統制會を中心とする組織に組織されつつあるのであつて、大東亞戰爭決戰第二年への突入と共に何よりも先づ此の

組織 化の促進が要請せらるるのである、夫に斯くの如く多數の力を一つの組織體として組織せられたるものは一本の指揮の下に組織自體として組織全體として統合[illegible]的確に行動し得るものでなければならない、之が爲には右の組織體は統合せる個の總和であつてはならない、個の單なる總和たるものは眞の意味の組織體ではないのであつて、個は存在するも全體としての態形はないのである、從て戰鬪態形に於て要求せられるものは全體と個とが一に歸したる組織體でなければならないのであり、此の意味に於て從來の工業組合なる組織に移行するを要するのである、故に統制會及至統制組合の各個の企業は一であつて二ではないのであり、その間に何等の間隙あることは許されない、渾然たる一體でなければならないのである、言葉を換へて言へばそれは

一個 の企業體たるが如く運營されなければならないのである、同時に右の組織體は、一本の指揮の下に行動することを要請せらるる、戰は神速を以て第一の要訣とする、行動神速たらんとせばその指揮は常に一に出づるを要する、茲に指揮者原理の確立が統制會に必須とせらるる所以が存するのである、然し乍ら指揮者原理は信頼、責任、服從、誠實の四要素を總括の要件とする、從て統制會の自己革新が要請せらるる[illegible]、戰爭の總體が廣大多數に涉るに從て各個の總合局面を通する作戰計畫の確立が必要とせらるることは當然である、經濟戰に於ても此の事は何等異なるところはないのである、從て國家經濟の總力を集中動員し以て敵を破碎せんとするに當つては各個の經濟力は一の作戰計畫に基いて全體的意味に於てその行動が指揮せらるることを必要とする、此の意味に於て經濟戰の作戰本部の

確立 が何よりも先づ要請せらるるのである、個人の責任と誇り、能率と貢獻も皆此の計畫の範圍に於いて與へられたる命令遂行のものでなければならないことは勿論である、從て各個の經濟の中に於ける自己の地位及其の使命を明確に把握することを以て自己活動の第一の前提條件としなければならない、而して自己の位置に於て與へられたる使命達成にその全力を傾倒するは勿論、あらん限りの創意を發揮すると共にその本分とする責任を全うするを以て使命達成の實踐を遂行するのであつて、經濟戰士各個の戰鬪であり自己戰であるのである、此の使命達成こそが經濟戰士の本分であり、此處に經濟戰の勝利を獲得する以上に何ものも許されないのであり、從つて[illegible]することは許されないのである

戰鬪 に於ける個の使命は個の生存ではないのである、全體の死を意味する、必死して個の生存はないのである、共に同一目的の爲に相互の生命を賭する、この瞬間にこそ自ら一體感は湧いて來るのである、戰友の一語は實に此の美しき一體感を表現せるものに外ならないのである、總つて經濟戰も亦共に戰ひであるのである、從つて經濟戰士も亦相互に相携へて戰ふ、經濟戰士が全體に戰友愛が確立せられたる時こそ眞の意味の戰鬪態形が確立せらるる日であると考へる、而して戰鬪の運命を荷ふて常に勝ち拔かん事を斯くの如き決意のもとに大東亞戰爭決戰第二年を迎ふる時に當つて、經濟決戰に於ける經濟戰士間の戰友愛の確立を眞心より希望して止まないものである（筆者は商工省總務局長美濃部洋次氏）

2603　國威宣揚

臺北市[illegible]　日本醬油株式會社　電話[illegible]

臺北市下奎府町二丁目　大正醬油株式會社　電話參〇參四番

臺北市[illegible]町二〇九番地　土木建築請負業　協志商會　電話參八〇壹番

松山[illegible]合資會社　林金治　內湖庄[illegible]

南港　興南炭礦公司　代表者　安川[illegible]

各種竹細工製造販賣　吳阿財　南港庄[illegible]

內湖庄煉瓦販賣店　林慎孕　東新庄子[illegible]

南港煉瓦製造公司　七星郡南港庄[illegible]

[illegible]內湖庄代理店　王建河　大原東吉

日華生命代理店　田中耕吉（內湖庄）

內湖庄五分販賣所　黃傳塗（內湖庄）

炭礦主任　有吉鳴次郎（內湖庄）

基隆市濱町五拾壹番地　[illegible]　西村盛男

基隆[illegible]　鈴木忠次郎

基隆市旭町三丁目六番地　[illegible]　松下榮吉

[illegible]　田中庄吉　基隆市壽町三丁目九番地

基隆市[illegible]　社長　紀秋水

基隆市元町二ノ三三　金利成　吳坤南

炭礦　基隆市旭町三丁目　高文秀

[illegible]　許聞利右衛門　基隆市

各眼鏡一式專門店　神藤眼鏡店　基隆市[illegible]

基隆市壽町一丁目　眼鏡貴金屬時計專門　神藤時計店

基隆市壽町　藥種商會　和田松樹

基隆市壽町　食堂　松上忠平　電話六二二番

金隆炭礦公司　代表者　顏赤九

基隆市福川町三一　石炭採掘請負　朝川淳盛

基隆市義重町　アサヒ建築設計事務所　柏原隆一　電話[illegible]九五番

臺灣基隆港驛前　基隆運送株式會社

基隆市元町二丁目　櫻井商會本店　電話參參五五番

基隆市義重町一丁目　ツサカヤ文具商　伊藤一良商店

基隆市旭町二ノ三九　和合文具店　電話參四五番

小島醫院　小島春三　基隆市[illegible]一丁目　電話五七九番

基隆市壽町　內科外科　淺井醫院　電話壹四九壹番

基隆市　中山產婦人科醫院　中山宗雄

基隆市壽町市場前　厚生醫院　電話五五番

基隆市義重町　坂野藥房　電話壹〇壹四番

基隆驛前　船越食堂　電話二〇一番

基隆市玉田町　黃添[illegible]商店　電話三二六番

基隆市旭町二ノ九三番地　文開洋服店

臺灣商工金融株式會社　基隆市高砂町一ノ一

[illegible]　天滿電氣商店　天滿撞球場

電氣工事請負業　萬榮商店　電話一〇四〇番

基隆市壽町三六　新發鐵工場　電話二五二番

基隆市[illegible]三番地　雲源鐵工所　電話六二〇番

[illegible]　文明堂製作所　基隆市入船町三ノ九

正晃ゴム印　[illegible]　電話八八三番

朋食堂　森川五郎

基隆市玉田町一丁目卅六　若村商店

基隆市[illegible]四丁目　松本藥局　電話六一七番

李修商會　基隆市元町三丁目九・三六

基隆市元町二ノ一九　ヨシキ星洋品店

基隆市大沙灣　下地寫眞館　電話九六二番

本店臺北市榮町新公園前　支店基隆市義重町四ノ八　アサヒ寫眞館

基隆市[illegible]　崇雲商行　電話一三六八

基隆市[illegible]町七丁目十一番地　建昌商店　電話八九番

基隆市義重町六ノ一七　飯塚恭朋

基隆市日新町二ノ一六　富士俱樂部

基隆市双葉町二　田中便利屋　電話九九四番

日本鑛業金瓜石鑛業所　小野誠一

臺北市內各科醫院案內（順序不同）

小兒科　京町一丁目（新公園前）　松山醫院　電話四五四〇番

小兒科　京町一丁目三番地　武藤醫院　電話四八五九番（入院設備）

小兒科　新起町一丁目　石井醫院　電話七九六六番

小兒科　京町一丁目（榮町通り）　關屋醫院　電話[illegible]（病室完備）

內科小兒科　本町一丁目三番地　樋詰醫院　電話二五四七番（入院設備）

內科小兒科　榮町（銀行前）　天野醫院　電話[illegible]五九〇番

內科小兒科　新起町三ノ一〇　內藤醫院　電話四七一七番

內科　榮町　山崎醫院　電話二〇七番

內科　京町一丁目　秋山內科醫院　電話五九九八番（入院設備）

內科小兒科　新起町一ノ七　富田醫院　電話六五〇番

眼科　京町二ノ八　塚原眼科醫院　電話[illegible]（入院設備）

內科眼科　新起町三丁目　森醫院　電話五三三八番

眼科　榮町二丁目（銀座通り）　牟田口醫院　電話七九六七番（入院設備）

齒科　京町　小林齒科醫院　電話二六八二番・九四三三番

齒科　榮町三丁目（銀座通り）　青木齒科醫院　電話六七九五番

齒科　大和町二ノ八　本村齒科醫院　電話五五九〇番

齒科　兒玉町一丁目　錄田齒科醫院　電話九三三〇番

齒科　京町一丁目（公會堂前）　今堀齒科醫院　電話[illegible]

齒科　[illegible]　平川齒科醫院　電話四〇八一番

齒科　榮町四丁目　大原齒科醫院　電話六八六二番

齒科　明石町二丁目一番地　藤井齒科醫院　電話三三九八番

齒科　京町二ノ二四　杉山齒科醫院　電話三七七三番

齒科　新起町一丁目　澁谷齒科醫院　電話[illegible]

齒科　若竹町二ノ一（西本願寺裏）　高橋齒科醫院

齒科　京町（榮町通り）　道野齒科醫院　電話七七五番

齒科　大安十二甲四一七（昭和市場前）　合志齒科醫院

齒科　千歲町三ノ四九（消防詰所前）　澤熊齒科醫院　電話七六八番

齒科　壽町二ノ四　江熊齒科醫院　電話五五五番

齒科　本町三ノ五　綾野齒科醫院　電話[illegible]

齒科　末廣町一ノ二　須永齒科醫院　電話[illegible]

外科　本町三丁目一番地　菅沼醫院　電話[illegible]（入院設備）

外科　本町三丁目（銀座通り）　菅野醫院　電話二五〇六番（病室完備）

外科泌尿器科皮膚科　本町一丁目　一番ケ瀬醫院　電話二一八九番

泌尿器科皮膚科　京町一丁目　千本醫院　電話六〇八番（病室完備）

泌尿器科皮膚科　大和町一丁目　三根丸醫院　電話四八五五・七六三六番（病室完備）

產婦人科　京町三丁目（銀座通り）　鶴田醫院　電話一九五四番（入院設備）

產婦人科　大和町二　福田醫院　電話六九五四番（病室完備）

耳鼻咽喉科　錦町四四（日本勸業銀行前）　菅村醫院　電話八〇七番

耳鼻咽喉科　榮町一丁目　天野醫院　電話四〇一番

耳鼻咽喉科　本町二丁目　宮島醫院　電話五六四番（入院設備完備）

耳鼻咽喉科　本町二丁目　早田醫院　電話四四五番（入院設備）

耳鼻咽喉科　京町一丁目　藏田醫院　電話五三八七・五六三番（病室完備）

外科整形外科　京町一ノ一七（公會堂前）　富田診療所　電話[illegible]

惡條件を完全克服
比島の經濟建設は進む

【マニラ發同盟】比島の經濟建設が本格的に着手されたのはコレヒドール陥落後と言つてよく、それまではマニラ附近の限定された經濟秩序の再建しか行はれてゐたに過ぎない、勿論この間に於てルソン島を縦貫する鐵道の再建、マニラ附近の食糧確保の諸施設、金融機構の整備、物價の統制等への施策が講ぜられて [illegible]

[illegible]

砂糖に 關しては從來の [illegible]

[illegible]

消費を [illegible]

[illegible]

交通網 の完全を [illegible]

[illegible]

在來種の收穫四倍
臺灣“蓬萊米”移植に成功

[illegible]

植付が [illegible]

[illegible]

增產と [illegible]

[illegible]

一段と [illegible]

[illegible]

行政府 [illegible]

[illegible]

關稅法を改正
戰時海上輸送の完璧へ

[illegible]

搗精工場を統合し
臺灣精米有限會社（假稱）設立準備

[illegible]

土壤の酸性反應と
作物との諸關係を見る

[illegible]

米國の惱み深刻化
本據・白堊館の首腦者

[illegible]

臺灣經濟視察へ

[illegible]

軍需品途中で盜難
濠洲空軍當局が“泣言”

[illegible]

米國の輸送力減退

[illegible]

重慶敗殘この一年
（上）
頽勢挽回策と蔣の獨裁

自主抗戰の夢

[illegible]

“幻滅”の苦盃

[illegible]

ビルマの敗戰

[illegible]

（つゞく）

商況（七日）
株式 重點株を始め强調

兜町前場況

[illegible]

東京短期前場

[illegible]

東京長期前場

[illegible]

東京短期日步

[illegible]

東京長期總取組

[illegible]

大阪短期前場

[illegible]

大阪長期前場

[illegible]

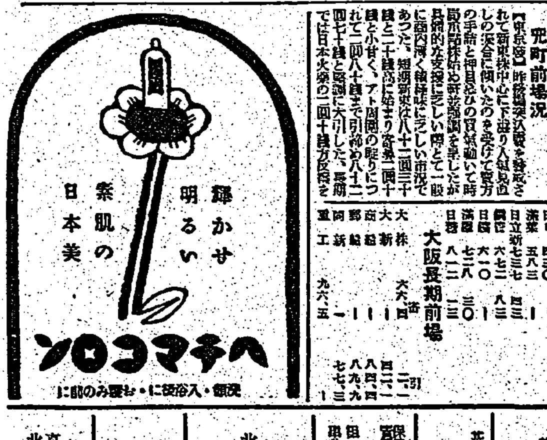
東短取組喰合

[illegible]

生徒募集（若干名四百名）

東京女子醫學專門學校

出願期日 一月四日より二月十七日迄
募集人員 本科 百五十名
試驗期日 三月十九日より二十五日迄
試驗科目 國語、數學（代數、平面幾何）物理化學
校長 吉岡彌生
東京市牛込區河田町
電話牛込七〇七八・七〇七九



謹賀 貫け！二億鐵石心 皇紀二千六百三年

臺北市本町二丁目
十一屋化粧品卸部
電話三〇〇六番

臺北市西門町二丁目
十一屋小間物商店

臺北市榮町
小間物 化粧品商
榮屋
電話七八三六番

基隆市自轉車小賣商組合

基隆市生鮮蔬果商組合
組合長 張式棋

基隆市 食堂營業組合
組合員一同

宮崎音次郎商會

土屋商店

野崎商會

安部 壺遊井商行

平戸漁鉾店

平戸食品有限會社
電話三六二番

飯田商司
電話一一五四番

吉武商店製函部
電話二二五四番

田邊善吉商店
電話七二四番

合資會社田邊商店
代表社員 田邊海壽夫

大榮モーター商會
澤田森夫

富士屋樂器店

基隆市 基隆土木協會
會員一同

北投信用購買販賣利用組合
組合長 許徳
專務理事 陳義塔

七星郡北投街北投四六番地
北投自動車株式會社
電話二四五五番

七星郡北投街
北投温泉旅館組合

臺北市
臺南旅館組合

竹東茶業株式會社

竹東砂糖小賣商組合

大日本製糖會社苗栗製糖所
森脇香丸

日本石油苗栗製油所
所長 中村安太郎

苗栗街
彭松壽

廣東市惠愛西路
大平藥業株式會社廣東支店
電話一〇二八五番

廣東市維新路
日本自動車株式會社廣東營業所
電話一〇五七六番

香港市中住吉通ユニオンビル六階
東光興業公司
工業藥品商

廣東市太平路
桑田洋行

廣東市太平路
西村洋行

廣東市太平路
越智洋行

廣東市太平路
丸一洋行

廣東市太平路
廣松洋行
綿絲布、諸織物、纖維類

廣東市仁濟路
大盛洋行
河村定吉

廣東市長堤大馬路
白雲旅館

廣東市惠愛中路
山之內製藥株式會社廣東出張所
東京店 大阪店 臺北店 支店

本店 臺北市東門町
吉松洋行
電話六二一〇番

廣東市長堤大馬路七九號
臺灣青果株式會社廣東事務所
電話壹四四六番

廣東市長堤七九號（壹灣館）
臺灣產業株式會社廣東出張所
電話壹五七七番

廣東市長堤大馬路七九號
南興公司廣東出張所
電話壹參〇四參番

廣東市長堤大馬路二九八號
廣東荷役倉庫組合

香港雪廠街三番地
同 香港支店
電話貳〇〇六貳番

廣東市海珠新堤九四號
日本水產株式會社廣東出張所
代表電話壹壹參八番

廣東新華ホテル
代表電話壹貳九八壹番

廣東市太平南路壹七號
金光公司
電話壹貳九參九番

廣東市仁濟路貳八號
貿易商 和順洋行
電話壹五〇貳五番

廣東市一德路四六四號
貿易商 百興洋行
黃木邑
上海、汕頭、厦門、香港

廣東市一德路四九號
聯發商行 冠世公司
廣田林文敬彥信

營業種目 諸機械類、船舶設計、製作修理 電氣及瓦斯熔接土木建築一式
臺灣鐵工所
廣東市維新路壹參貳號
廣東出張所

廣東市惠福東路
貿易商 裕昌洋行

輸出入 內地、臺灣、上海、香港、澳門
物資搬出入 各省縣向
貿易商 泰豊洋行
廣東市濠民南路
王文明 唐和四

廣東市西湖路七五號
共榮會廣東支部
代表電話壹壹五四〇番

聖上 講話を御聽取
きのふ 芳澤大使を召されて

【東京電話】天皇陛下には七日午後二時から御學問所において芳澤駐佛印特派大使を召され最近の佛印の事情に關し一時間に亘つて講話を御聽取、同大使は畏くも種々御下問に奉答したが終つて宮相、木戸内府、百武侍從長、蓮沼侍從武官長などにも陪聽を差許された

日佛印間の事情を奉上
芳澤大使謹んで語る

大御心

佛印の

情勢は

見込み

滯京中

一億國民闘魂傾け
米英撃滅に總進軍
けふ・大詔奉戴日設定一周年

勤報在郷青年隊員を再訓練

勤皇護國の士たらん
翼賛會 相川實践局長放送

實践申合事項

空襲

増産

事項

空地一體の實を發揮
個人感状に輝く空の守護神堀大尉

基地を

情報に

砲撃

吊取方

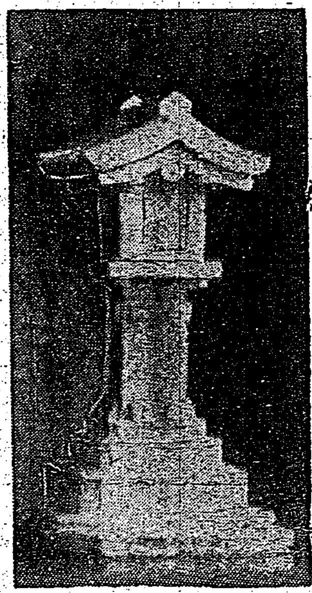
全身に

責任感

戰果を

大詔奉讀式を擧行
恒例の臺灣軍觀兵式は取止め
軍司令部で

護國神社に大石燈籠
臺灣軍將兵、軍屬から獻納



陣頭指揮精神昂揚懇談會
八日花蓮港市に

産業奉公 陣頭指揮を强調
木村、桝山兩氏新竹で熱辯

白衣の勇士に新春の慰問品

必勝貯蓄の實践誓ふ
臺北市奉壯團 緊急總常會開催

適格青年の身體檢査狀況
桒井知事きのふ視察

奉公醫師團近く法的に改組
曾田督府衛生課長歸北して語る

相當量入荷

血書を以て義勇隊員を志願

拓南工業戰士に實習訓練

大扶桑國

日本名婦傳

農人乃木

中學生

全國書房

心臓 喘息の治療に 心力
◎精力强壯に弱き人◎
◎動悸息切ある人◎
◎結核肋膜熱の人◎
福山市 心力本舗

第一放送

第二放送

今日の映畫演藝

台北合同興行會社

基隆の映畫

今日の東寶國際館

株式名義書換公告
東海自動車運輸會社

第拾四期決算公告

松下製品配給社

兒玉材木店

昭南島行女給數名募集

萬媒

引越

間貸

女中

タイピスト

産婆

看護

給仕

出張

技工

會葬御禮
周隆慶
周忠慶
外遺族一同

洋服地販賣
臺北市大和町二丁目
逢坂商行
高雄支店

四月新學期願書受付開始
◎專門部
◎女學部
私立吉見裁縫學園

冷症に神經痛に
家庭溫泉にミネラールで
代理店 東京堂藥局
代理店 長谷川長衛商店

一月九日（土）
十日（日）
一月廿六日（土）
廿七日（日）
臺南秋競馬
主催 臺南州畜産會

音福の界築建
壁の友
◎新製品現る
シツクヒ、上塗、中塗、刷毛塗は…壁の友が引受ました。水に溶かして其まま塗るのですから極く簡單で觸つても剝けない、汚れは拭き取れて仕上りは優美で强靱、安い時代品です。
小貫貳百五拾匁 五拾錢
製造元 野田商行

戰捷の春・初の「八日」
今ぞ必勝の決意も新たに前進！
擧島嚴肅な祈念一色

【嘉義電話】大東亞戰爭第三年の年頭大詔奉戴日の八日を迎へ嘉義市奉公部では恰も同部創設一周年記念日にも當るので此の日全部員は午前七時嘉義神社大前に參集し社前に戰捷祈念式を執行、續いて奉公壯年團を創立の宣誓文を松川團長の奉讀に一同齊唱して祈念式を閉づることになつてゐる尚同團一ヶ年の行事を顧みると大體左の如くである

[illegible]

羅東

[illegible]

産業人の使命強調
增田臺電社長烈々の辯

[illegible]

宜蘭

[illegible]

見よこの志願兵熱

どうか從軍看護婦へ
女性の意氣に適格者感奮

[illegible]

見違へる程の體格
成果大なり保正鍊成會

[illegible]

楠井教授講演會

臺南州氷菓子製造同業組合

保甲婦女團蹶起
志願兵講演會に

[illegible]

志願兵座談會

志願兵募集最終打合會

陣頭指揮員揚懇談會を開催

志願兵講演會

この榮譽君知るや
家長、主婦らへ趣旨徹底

[illegible]

決戰の態勢成る
高雄州産業部の緊張

[illegible]

高雄

[illegible]

女性の意氣を昂揚
幹部六十一名の鍊成會

[illegible]

防空研究懇談會

臺灣州聯合演習

臺灣基督教奉公團高雄支部發會式

繰展ぐ赤誠の繪卷
親は子を、弟は兄を勵まし
志願兵へ怒濤の如く殺到

[illegible]

内田見融師全島行脚日程決る

[illegible]

なんと約五萬圓
新竹一年の赤誠獻金額

[illegible]

競步大會

婦人會幹部鍊成會

事務打合會

高砂族青年道場竣工す

陣頭指揮を實踐
部落會長常會で決議

[illegible]

職員排球大會

銀バスも颯爽
平地―山地文化道路完成

[illegible]

齋藤州警察部長南部地方初巡視

消防出初式

淡水

宜蘭

恤兵金

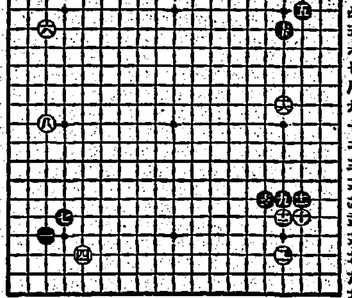
[illegible]

赤誠の獻金

軍司令部（扱ひ）

國防獻金

[illegible]



藤澤六段　篠原六段　對戰

つそれだよかわをるぬりちとへほにはろい

一二三四五六七八九十土圭圭古玄夫丰大丸

【第一回】

先六段　藤澤庫之助

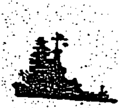
白六段　篠原正美

持時間各十時間

藤澤まづ長考

[illegible]

大いなる祭
(30)
中野實作
三芳悌吉畫



白旗（六）

[illegible]

戰爭保險
東京火災
台北市榮町
出張所

戰捷の陰に通信機
NEC
日本電氣株式會社

新しい頭痛藥
づつうにサール
づつうにサール
づつうにサール
アルス製品

胃腸に
エビオス
ニサモトオビ

丸鋸・帶鋸
製材木工機械
最古の歴史を誇る大阪唯一の信用ある店
弘瀨商店
大阪市西區本田町通二丁目七ノ四

外交時報
一月上旬號
戰力增强が第一也
外交時報社

杭長一〇〇尺施工容易
マルチペデスタル・パイル
東洋コンプレッソル株式會社

早稻田大學
第一高等學院
第二高等學院
專門部
高等師範部
專門學校

九州齒科醫專

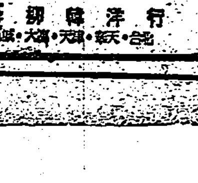
東京齒科醫專
校長　血脇守之助
入學試驗

東洋音樂學校
男女生徒募集

日本高等鐵道學校
東京市杉並區

かぜ
これは健民生活の大敵だ
ビタミンAD を連用して、感冒に負けない軀をつくりませう。
虛弱體質改善・姙産婦（胎兒）榮養
ビタミンA、D劑の逸品！
水産　林兼製劑
厚生省衛生試驗所檢定
ビタドール
發賣元　林兼商店

『口を結ぶ』運動
一、大國民の態度として
一、默つて働く姿として
一、防諜の實践として
一、保健衞生の心得として
これから
仁丹含んで居れば咽喉を護り風邪を防ぐ
消化と榮養を促進する
職場に外出に人込に
仁丹

根こそぎ撲滅
急慢性の淋疾又は淋菌性諸疾患に對する短期治療劑テーユーサイドの偉効は最早實驗濟である。
テーユーサイド
洋行